

報 告 書

平成 23 年度九州地区大学体育協議会
体育系学生リーダーズ・トレーニング

「力(ちから)～リーダーの持つべき力とは・・・～」



九州地区大学体育協議会

◆◆ 目 次 ◆◆

・ 実 施 要 綱	2
・ 日 程 表	3
・ 講 演	4
・ 分 科 会	11
・ 講 評	30
・ レ ク レ ー シ ョ ン	35
・ 実 行 委 員 名 簿	37
・ 学生代表者会議名簿	38
・ 添 付 資 料	39
「九州地区大学体育協議会規約」	
「九州地区大学体育協議会規約施行細則」	
「九州地区大学体育協議会体育大会規則」	
「九州地区大学体育系学生リーダーズ・トレーニング規則」	
「九州地区大学体育協議会準備金規約」	
「九州地区大学体育協議会学生代表者会議規則」	
「体育系学生リーダーズ・トレーニング実施要項基準」	
「九州地区大学体育大会実施種目」	

平成23年度 九州地区大学体育協議会
体育系学生リーダーズ・トレーニング実施要項

1. 目 的 体育系サークル幹部を対象に、リーダーとしての知識を習得し、幹部としての責任、役割を身につけるとともに、九州地区大学体育の活性化等並びに大学間相互の連帯意識の育成及びサークル幹部の資質向上を図ることを目的とする。
2. 期 日 平成23年11月4日(金)～6日(日)
3. 場 所 福岡県立社会教育総合センター
〒811-2402 福岡県糟屋郡篠栗町大字金出 3350-2
TEL 092-947-3511
4. 日 程 別紙のとおり
5. メインテーマ 力(ちから) ～リーダーの持つべき力とは・・・～
6. 参加資格 次のいずれかに該当し、全日程に参加できる者
(1) 加盟大学の体育系サークルを統括する学生
(2) 体育サークルの指導・助言を担当する教職員
(3) 九州地区大学体育協議会総務委員会の体育教員
※途中参加の場合は、事前に申し出て許可を得ること
7. 参加者数 原則として、1大学につき学生5名以内、教職員2名以内とする。
8. 参加申込 所定の様式により、学生部長(相当職)名で申し込むこと。
9. 参 加 費 学 生:6,000 円 (食費・懇親会費を含む)
教職員:6,500 円 (食費・懇親会費を含む)
※途中参加もしくは途中帰宅したものは返金いたしません。
- 10.内 容 (1) オリエンテーション (30分)
(2) 講演、分科会及び講評
 * 講 演 (60分)
 * 分科会Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ (420分)
 * 講 評 (60分)
11. そ の 他 参加費で下記補償の保険を掛けるが、これ以外については参加者各自で対応すること。
保険内容 : 死亡・後遺障害 2,000万円
 入院日額 5,000円
 通院日額 3,000円

平成23年度九州地区大学体育協議会
体育系学生リーダーズ・トレーニング 日程表

1日目	11月4日(金)	2日目	11月5日(土)	3日目	11月6日(日)
		6:30	起床	6:30	起床
		6:50	クリーンタイム	6:50	クリーンタイム
		7:05	(宿泊室・研修室清掃)	7:05	(宿泊室・研修室清掃)
		7:15	朝の集い	7:15	朝の集い
		7:30	朝 食	7:30	朝 食
		9:00	途中参加 受付	9:00	全体清掃
		10:20	分科会Ⅱ(1)	9:30	講 評
		10:30	分科会Ⅱ(2)	10:30	閉会式
		11:40		11:10	解 散
		11:50	昼 食	当番大学 近畿大学 産業理工学部 近畿大学 九州短期大学 福岡教育大学 福岡県立大学 福岡女子大学 九州産業大学 福岡工業大学(短期大学含む) 東海大学 福岡短期大学	
13:00	受 付	13:00	分科会Ⅲ (報告会)		
13:30	開会式 オリエンテーション				
14:00	講 演	14:30			
	自由時間	14:50	レクリエーション		
15:30	分科会Ⅰ	17:00			
17:00					
17:15	夕べの集い	17:15	夕べの集い		
17:30	入浴・夕食	17:30	入浴・夕食		
19:40		19:30			
20:00		19:30	分科会Ⅳ		
	懇親会	21:00			
22:00		21:00	自由時間		
		22:00			
22:30	消 灯	22:30	消 灯		

◆◆ 講 演 ◆◆

演 題 : 「アテネオリンピックの舞台裏」
～競泳チームキャプテンから見たチーム作り～

講 師 : 近畿大学 入学センター 主任 山本 貴司 氏

山本 貴司 (やまもと・たかし)



- アテネ五輪(2004 年)200m 男子バタフライ銀メダリスト
- アテネ五輪(2004 年) 男子 400m メドレーリレー銅メダリスト
- アトランタ(1996 年)、シドニー(2000 年)、アテネと五輪 3 大会に連続出場
- 日本選手権バタフライ 100m で 10 度、同 200m で 7 度優勝
- 1978 年 7 月 23 日生まれ(32 歳)、大阪市出身、178cm、73 kg
- 近畿大学附属高校、近畿大学商経学部卒(2001 年 3 月)
- 2001 年 4 月から近畿大学職員、2004 年 10 月から水上競技部コーチ
- 現在、近畿大学入学センター入試広報課勤務
- 24 時間テレビ(日本テレビ)津軽海峡縦断遠泳リレーに参加

<競技歴>

- 3 歳からイトマンスイミングスクールで水泳を始める。
- 伝説の自由形女王、ジャネット・エバンス選手(ソウル、バルセロナ五輪の金メダリスト)を育てた名コーチ、バッド・マカリスト氏に師事。
- 1995 年、日本選手権で初優勝
- 1996 年、近畿大学附属高 3 年でアトランタ五輪に出場。
- 2000 年、シドニー五輪に出場。
- 2002 年のパンパシフィック選手権で 200m バタフライ銀メダル。
- 2003 年の世界選手権で 200m バタフライ銀メダル。日本チームの主将を務める。
- 1996 年から 2003 年までの間、100m バタフライの日本記録を連続 11 回更新。
- 2004 年のアテネ五輪で 200m バタフライ銀メダル、男子 400m リレーでは銅メダル。日本競泳チームの主将を務める。
- アテネ五輪後、約 1 年のブランクを経て、北京五輪を目指し復活。
- 2007 年 8 月、世界競泳 100m バタフライで金メダル。
- 2008 年 4 月、日本選手権 200m3 位(派遣標準記録突破)、100m4 位でオリンピック出場を逃がし、現役引退。

【2011 年 5 月 6 日現在】

皆さんの中で、オリンピックのメダルを取ったとか、出場した事のある人の話を聞いた事がある人はいますか？

話を聞いていく中で、「こんな事を聞いてみたい」など考えながら、話を聞いてください。

アテネオリンピックでは、競泳のキャプテンをしていました。

「チーム作り」と言う部分で、競泳と言うのは個人種目のため、個人個人結果を残せば、それでいいという考え方もあると思うし、でも僕は、オリンピックと言うのは、「チームが1つになって初めて大きな成果を生む」という風に考えています。

自分の中で、特に水泳がやりたかったわけではなく、僕自身が一人っ子で、幼稚園の時に団体行動をさせたほうがいいという親の考えで、家の近くにスイミングスクールがあったから、通い始めたのがきっかけでした。

そこで一生懸命頑張ってきた事が、このような成果に繋がっています。

でも、オリンピックに出たいとか、目指そうという気持ちはありませんでした。小さな時から練習はハードで辛いもので、辞めたいという思いもたくさんしてきました。

自分は小学校・中学校と全国大会にいけるような選手ではありませんでした。

中学生になって、初めて大会に出場して、決勝にいけるかいけないかくらいでした。

練習中はどんな風だったかと言うと、中学の時、自分はバタフライをやっていましたが、バタフライというのは、オリンピックに出る種目では、とても練習がハード。

ゆっくり泳いでもしんどい、普通に泳いだらもっとしんどい、速く泳いだらさらにしんどい。中学の時はすごく嫌でした。その時、クロールで泳いでいる選手を見て、カッコいいと「クロールで泳ぎたい」と思いました。

コーチに「クロールがしたい」と言いに行ったら、「バタフライをしなさい」と言われました。

「できません」と中学の練習の時、ずっと泣いていましたね。

高校にあがった時、練習が終わって、筋トレをやるようになりました。

高校で、インターハイに出るようなチームに入った時、自分は「今までしっかり練習をやっている」と思っていたが、それは水中トレーニングのみで、高校で皆は練習が終わった後、腹筋・背筋などの筋トレをやっていたんです。

そういうのを見た時に、「自分もしなければ」と思い、自分自身も変わってきました。

やはり、その強いチームに入った事で、周りの選手が、「そういう事をやるのが当たり前」そういう雰囲気の中、やらなかったら浮いてしまう。「あいつはさっさと帰っている」と見られる。そんな雰囲気が当たり前の中に入っていたら、自然と「やるぞ」と思い、「ああいう事をしなければいけないんだ」と気付くことが出来ました。

そうやっていく内に、高校生の時に急に記録が伸びだして、高校3年生の時に始めてオリンピックに出る事が出来ました。オリンピックに出た事で、今度は色んな日本代表の遠征などに行くようになりました。

そこはやはり、普段の練習の環境とは違い、日本代表・日本のトップスイマーが集まる場所。

初めて行き、初めて見たものは、他の選手は何度も日本代表でいろんな国や、合宿に行き大会に出ている人達。そうすると、初めて参加する僕らは、チームの中で居場所が無かった。

僕は普段はこう見えても明るい性格で、そういう自分の居場所がないという環境で、気を使って、話せなかった。そういう経験もしてきました。

やはり良い結果を出すには、そういう環境だと良い結果は出せない。

ずっといても居心地が悪いし、「さあ、大会です。良い結果をだしなさい」と言われる中で、普段と違う生活をしていて、ビジョンを作ろうと思っててもできない。

僕は、幸いチームに溶け込むのが早く、サークルで仲間がいて、話が出来ると笑いながら盛り上がる事が出来て、その内、色んな先輩が声をかけてくれて、ようやく色んな先輩と話ができ、チームに溶け込む事ができました。

たった一人で来た人には、すごく時間がかかったと思う。

そういう経験もしながら、なかなか結果を出せない選手も見てきました。

シドニーオリンピックの前年に、日本代表のキャプテンを任されました。初めて日本代表のキャプテンをした時は、先輩の選手もいるわけで、年下の自分が指示をしなくてはなりません。新キャプテンをやり始めてからは、なかなか信頼してもらう事ができませんでした。

競泳チームは、男子も女子も同じチーム。男子は男子、女子は女子で楽しくするというのは、よくないという気持ちを持っていました。やはり男女間で話しをしないと。食事の時に、男子だけで固まらない、女子だけで固まらないと良く言っていました。そして気づいたら、自然と男女混合に座り、「色んな話しをしよう」というような感じでやっていました。自分が気を使ってやっていたら、周りもすごく気を使ってやっていて、結局、そういう形で話しをしていかないと、ダメだという気持ちになってしまいました。自然とそうする雰囲気だったらいいが、「キャプテンが言っているから」と「あの人と話しがしてみたい」ではすごく違う。

それを自然に、お互いが素を見せるのが大切。

いつも食事後にミーティングの時間を設けていたが、そこで皆にいい話をしなければいけないという気持ちになり、緊張感から夕食が入りませんでした。すごく気を使っていた。そして自身がつぶれていく。その経験から、自分自身は自然体のスタイルが一番いいと思いました。

シドニーオリンピックの前に、色んな気を使いすぎて、ギクシャクした感じになり、「シドニーでもキャプテンを」という話しが出たが、嫌で断りました。後ろからついていく方が良いと思ったんです。

アテネの時は引き受けたけど、日本代表のヘッドコーチがカバーをしてくれた。今思えば、ヘッドコーチはアテネのキャプテンをやってもらおうと思って、シドニーで一度やらせたかったんだと思う。

シドニーの時から、色んな話しをしてきました。良い結果を出そうと思ったら、挨拶もろくにできない人には難しい。

大きな舞台で成功しようと思ったら、スポーツ選手に一番必要な事は、「人間性」。縦社会で、先輩後輩がいる。やはりクラブに入っている人と入っていない人では、そういうところで大きく違うんです。クラブに入っている人は、経験豊富で自信もあり、人間力も鍛えている。

アテネでキャプテンをやりましたが、先生方とチーム力が大事と話していました。4月にオリンピック選考会があり、そこで代表が決まり、GWに合宿に行く。オリンピックの選手たちが、チーム作りの為にやっていた事。それは、「シンクロ」。何故シンクロだと思いますか？自分は何度もやっている事だから、そこに居場所があって居心地がいい。楽しいと思えるチームでした。

でも初めて来た選手は、自分が初めてきた時と同じ気持ち。だが、そのシンクロのチームを何チームか作り、チームでシンクロを練習して、チームとして皆の前で披露する。

練習の時、少人数でするのだが、いきなりチームを5・6チームに分けて、「さあ、話しなさい」と言ってもなかなか話せません。少人数で話せる環境を作り、その中で練習しますが、シンクロというのは、足をあげるタイミングだったり、皆が心を1つにしないと綺麗な演技ができません。コースに皆でならんで、手をつなぎ合わせていく。

そのような事をして、皆の気持ちを1つにするという作業をしていく。

少人数というところからはじめる事で、初めて入ってきた選手でも、1つのグループの中で話ができ、自分の居場所ができ、今度は少人数の中でもその中には、何度も日本代表になった選手もいるので、クロスしていく。

色んなチームとの話がクロスしていき、コミュニケーションが始まっていく。そしたらチーム同士が合い、新たな仲間・メンバーで話をする事ができ、そうやって徐々に大きくなってチームが1つになっていく。

そういうチーム作りをして、アテネの時に数字以外の事をしながら、5月の合宿の時にチーム

の目標を決めました。これは、オリンピックに行く選手にとっては、皆が共感できるテーマでした。

普通は室内プールで行われるが、アテネは屋外だったんです。

その時のテーマは、「アテネの空に、日の丸を」。

オリンピック代表チーム皆がその気持ちを持った集団だったので、テーマを聞いた瞬間、皆震え上がりました。

しかし残念な事に、4月の選考で選ばれ、5月に合宿で、それから8月まではずっと一緒に過ごす事はありません。

日本全国にスイミングスクールがあり、一人一人所属があります。それぞれそこで練習をします。一旦は作ったチームで、仲良くなって、心が1つになって「さあ、これから」という時に解散するんです。そして、オリンピック直前にまた集まる。

解散する前にチームの皆に話したのが、トレーニングをしていて苦しくなった時に、「自分1人が苦しいんじゃない。ここにいる皆が、アテネの空に日の丸を上げたいと思っている皆が、同じように苦しんでいる。ひょっとしたら東京で誰かが苦しんでいるかもしれない。同じ目標を持っている皆が、苦しいと思っているかもしれないけど、苦しい時ほど皆の笑顔进行思い出せ」と話して解散しました。

僕は、そうやって全国に帰っていった時に、「皆笑っている、自分も頑張らないと」とそういう気持ちでやってきたし、チームはそういうのも大事だと思っています。

アテネ直前、本番に備えるためにイタリアに自薦合宿に行ったのですが、オリンピックはTVに映る。

だから、みんな「カッコよく映りたいから」という事で、髪型をカッコよくカットして、皆で気合を入れていました。

試合の期間は1週間あり、皆それぞれ出場する日が違い、前半後半と色々あります。

前半の人から順番に行きますが、僕は第2陣で、入るタイミングが開会式の前でした。

その時出迎えてくれたのが北島康介君で、すごい笑顔で手を振ってやってきたんです。丸坊主で。この時に思ったのが、「俺もこのくらいやらないといけないんだ」。

でも、すぐにはしませんでした。彼みたいに、ノリでしているのとは違うと思って断っていました。

しかし、開会式が始まる前、自分はキャプテンでスタイルをキメテ、気合を入れて、大会に臨もうとしている。

あの気持ちを感じている。最初からわかっている「やってほしい」と。

そこで自分がしなかったら、どうなっていたか。

なぜ僕がやったかという、皆で一生懸命やれる事をしてみたいと感じていたし、たまたまそのアテネは、「現役最後になるかもしれない」というのもあったから。現役引退して、10年・20年たって、一緒にいたメンバーが集まった時に、「あの時、丸刈りにしたなー」という話して盛り上がりたいたいという気持ちも持っていたからです。

そして、大会の始まる1日前の昼間に、覚悟を決めて、「丸刈りにする覚悟は決めたから刈ってくれ」と言ったら、女子選手にバリカンで真ん中から剃られ、そのまま笑われて逃げられました。真ん中だけ剃られて、ほったらかしにされて、恥ずかしい格好で放置されていたら、康介君が来て、笑われた後に剃ってくれて、丸刈りになりました。

そうやって、先に皆で盛り上がっていたら、昼寝をしていた選手が一人起きてきて、そしたらその子は、すぐにTシャツを脱いで、頭差し出して「お願いします」と言ったんです。そして皆、面白がって丸坊主にする。

その後、他の選手も「僕も」といい、伝染して行って、男子1名除いて皆が丸刈りになったのです。

そしたら、男子みんな「明日から、行くぞー」と叫んで皆の顔を見たら、丸坊主でげらげら笑って、チームの雰囲気はMAXになっていました。

それで、全くその状況を知らない女子は、その後のミーティングで驚くわけです。

頭なでられたりしながら、皆で騒いでいました。

普通は、試合の前は緊張して、明日からと思ったら、顔が引きつるくらいドキドキする。初めて出た、オリンピックではめっちゃめっちゃドキドキしていて、コースに出た時、呼吸も早くて大変で、そんな経験をしていたのに、アテネでは、前日にそんなに盛り上がり笑っていて、大会が始まってからも「一人、坊主を送り込むぞ」と楽しみながら送って、結果は、競泳の歴史の中で、一番多くメダルをとった大会になったんです。

チームで戦う時に、自分が一番大事だと思ったのは「笑う事」。
何故かという、ちょうどオリンピックの1週間前、やはりオリンピックに行く選手、みんなが緊張します。自分が近畿大学の学生だった時、スポーツ心理学を勉強していて、その時の先生の教えでは「最高のパフォーマンスをする状態には、2つの条件がある」と言うんです。

「程よい緊張と、程よいリラックス」

この2つが揃った時、最高のパフォーマンスができる。
緊張しすぎて、ガチガチで普段の動きができない、逆にリラックスし過ぎたら、なかなか集中できない。

それまで、緊張と言ったらマイナスイメージを持っていました。緊張したら嫌だと。
でも、その話を聞いた時に、僕は「最高のパフォーマンスをする為に、緊張しているんだ」と思いました。だから、皆にもそう言っていました。

僕はその大会の1週間前、緊張していなかったの、「皆、すごくいい、最高のパフォーマンスする状態に向かっていっているんだ」「俺よりも一歩も二歩も前にいっている」「めっちゃくちゃいい事、いよいよ戦闘モードに入ったんだ」という話しをしていました。
やはり、アスリートはそういう気持ちの部分が多い。何か、不安な事を持っていると辛い。結果はなかなか出せない。自信の塊にならない限り結果は出せない。

「いける」という自信をつける為に、トレーニングを「これ以上できん」というところまでやっておかないといけない。これは絶対条件。
後はやはり、最高のパフォーマンスをする為には、「緊張とリラックス」が大事なんです。

では、リラックスする為には何が大事か。授業で習ったのは「スマイル法」。人間笑わないと、血の巡りが悪くなります。
たまたま、男子チームは皆坊主にしましたが、何か笑えるような環境でないといけないと思います。

その前に、「チーム作り」。水泳選手だけど、シンクロをやるなど、友達同士色んなグループができて、仲良くなって、皆の居場所があり、普段の生活と変わらない環境が日本代表チームの中に出来上がっていた事が、一番強い状態になっていたのではないかと思います。

つい最近ですが、「なでしこジャパン」は苦労したんじゃないでしょうか。
PKの時、女子選手みんな笑っていました。
極限のワールドカップで優勝決めようかという時のPKで笑えますか？普通、ドキドキしますよね？

そんな雰囲気、そんな環境の中、笑えるってすごいなあと思いました。そんな雰囲気だからこそ、逆にリラックスして、己の力を出す事ができたのでは？と思います。
自分自身がチーム作りで大事にしていた事は、自分自身がリラックスをして、チームに接していく。

自分自身がすごく気を使って、緊張して、色んな事で「こうしなければ」となっている時は、周りもキャプテンに対して気を使っていると感じたのと、キャプテンは「上から目線ではダメ」ということ。皆と同じ目線でいることが大切なんです。

普通、年上でキャプテン、そんな人に冗談とか、からかったり、そういう事を出来ませんでした。そういう雰囲気だったんです。

自分は、年下の選手だったり、康介くんや他の選手をちょっと茶化してみたり、笑いものにしてみたりとか。そういう関係が出来ただけでも、すごく良かったと思っています。

あと、本当にコミュニケーションは大事。

大会の試合に行く前に、男子と女子で、そんなに頻繁に話しをしているわけではない。でも、

言葉を交わすだけがコミュニケーションではないです。

ハイタッチしたり、握手したり、触れ合うだけでも心が通じ合う。「頑張れ」という気持ちで握手をするだけで、伝わる。

自分がレースに出る時に、そういう気持ちで他の選手やコーチにやっていたら、やはり伝わってきます。

自然と力が入り、見つめ合って「頑張れ」と言っているのがわかるんです。

その当時、TVを見ていて気になったのが、巨人の原監督。

選手が帰ってきた時に必ずする事。握手して目力。それをすごくしたかった。

プールでは距離があったから、プールサイドの向こう側から「頑張れ」と手を振る。

それだけでコミュニケーションがとれる。色んな事をして、チームでコミュニケーションをとってきました。

あと、メッセージボードをオリンピック期間中に用意していましたね。レースをした後は、宿舎に戻ってくるのも遅く、次の日に試合もあつたりしたら早めに寝ています。でも、そういう時にメッセージボードに励ましの言葉や、おめでとうなど書いてコミュニケーションをとっていました。それを見た時に、応援してくれているんだと感じる。お互いに、心と心の繋がりが出来る。やはり、レースに出る前というのは不安だし、コース台に上がる時にも不安があります。

その時に、皆の励ましの言葉が聞こえてくる。背中を教えてくれる。

水泳は、個人で結果を追いかけてやっていますが、実は周りの人に、いっぱい支えられて、背中を押してもらって、コースに上がっています。

チームというのは、誰か一人結果を出したら次に次になります。

リレーは、「国と国の戦い」「戦争」そういう事だ。という話になった事があります。

「国の力を見せるところ」そのレースで絶対に勝たなければいけない。

この言葉1つで変わる。気持ちが盛り上がってくる。国と国の戦い。それほど重要なんです。代表になっていくわけだから、応援する人も力が入ります。

だから水泳競技でも、リレーというのは、「誰かがメダルをとった」というより、「チームがとった」「皆が戦ってとった」という気持ちに変わっていき、周りで支えているスタッフ・コーチ・選手みんな1つになって、あのメダルを取ったんです。

そのアテネの経験から、チームの話しをしましたが、何か質問があれば、お願いします。

Q :

僕がやっているのは、メジャーなスポーツではないので「初心者だから」と目標が低い人や「個人種目だから」とチームの意識が低い人が多くいるのですが、リーダーとして、チームを引っ張っていくには、どうしたらいいか？

A :

僕らの水泳というのは、記録というものがあるから、レベルが違うとか、そういうのを関係なく、自分の自己ベストが存在するから目標設定はやりやすい。

「自分の自己ベストを出す」というのが、大事な競技といえる。

今、大学でコーチをしていて、さまざまな選手が来ている。その中で一番すごい人は、自己ベストを更新した人。その頑張りを、褒めてあげる事が出来る。

例えば、僕が君の立場で、キャプテンをしていたら、僕が習っていたコーチに「どうせ一生懸命努力して、しんどいと思っても、頑張っただけで大会に出た時に、勝たないと面白くないやろ」としよっちゅう言われた。「負けた時に悔しい」「悔しいから練習するのだ」「勝つから面白いのだ」「どうせやるのだったら、皆で一生懸命頑張っただけで練習して勝ちに行こう」というようにもっていったらいい。

今回、皆の研究テーマは、ものすごく難しいと思う。

人それぞれ、色んな考え方をされていて、その性格的なものも指導していて、「このような考え方がいいのでは」という事を教えていくというのは、すごく難しいと思う。

それぞれリーダーをやっている人たちは、

そういう苦勞をしていると思うが、育っている姿を見る事が喜びと思うし、変わってきてくれ

ている事が嬉しい。

だから皆も頑張って、色んな人を引っ張っていけるようにしてほしいと思っている。

Q :

試合前には、何を食べていますか？また、試合前の決め事がありますか？

A :

本当は、炭水化物をとる事が大事。

でも実際は、何を食べてもいいと思う。満足して動けるのが一番いい。

アメリカの選手とか見たら、思いっきりコーラにハンバーガーを食べている。食わず飲まずだったら問題だが、ある程度のエネルギーとして、とっていたら大丈夫。

年間を通して、ハンバーガーばかりはいけませんが、普段はきっちりと生活して、大会のちょっと前くらいなら大丈夫。あれはダメ、これはダメだと、ストレスになる。

緊張してドキドキしていたけど、必ず大きく深呼吸をする。そこで初めて、スイッチを入れる。

それまでは、内心すごく緊張しているが、その深呼吸をする事で気持ちが落ち着く。

自分で心のスイッチを押すタイミングはあるはず。

Q :

僕は陸上をやっていて、陸と水の違いだけで同じ競技と思っていますが、「自信の塊にする事がベストを出す為の絶対条件」というお話を聞いて思ったのが、毎日のケアに、何か気をつけていた事がありますか？

A :

ケアに、気をつけていた事はありません。練習を頑張っていたのだから、疲れて当たり前。

疲れを感じないような練習ではダメ。「こんなに練習頑張った」というのが力になる。

次の日、寝て起きたらケロッとしている。ちょっときついと思うが、その積み重ねが嬉しい。

普段の練習では、ケアはせず、大会前になったら、普段は極限までやっているが、本当にここでほぐしてほしいと思う大会のぎりぎり前に、マッサージしてもらうくらい。

サプリメントなども普段は飲まない。

普段の練習では、疲れを感じない。それが自信になる。

◆◆ 分科会 ◆◆

議題「力（ちから） ～リーダーの持つべき力とは・・・～」

- ①：リーダーを中心としたまとまった団体をつくるには。
サークル（クラブ）内での意識を高めるには。
- ②：周囲からついていきたいと思うようなリーダー像とは。
リーダーシップをとる上での他人との接し方。個々の部員の能力の出し方。
- ③：自治体、サークル、学校との連携のとり方。
- ④：一人ひとりが責任を持てるようにするにはどうしたらいいか。
- ⑤：一人ひとりが責任を持てるようにするにはどうしたらいいか。
- ⑥：リーダーシップをとる上での他人との接し方。個々の部員の能力の出し方。
- ⑦：リーダーシップをとる上での他人との接し方。個々の部員の能力の出し方。
- ⑧：少ない人数でどう学校を盛り上げていくか。そのためにはどのようにリーダーシップをとるのか。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
議長	生田 (福工)	浜島 (福教)	友貞 (近大)	内田 (近大)	飯田 (近大)	吉田 (福県)	太田 (福県)	笹渕 (東海)
副議長	藤田 (九産)	斉藤 (福教)	松岡 (福工)	赤川 (福女)	青野 (福県)	笠井 (近大)	松田 (近大)	久富 (東海)
書記	伊藤 (福工)	中島 (福教)	下大藺 (近大)	藤田 (近大)	中村 (東海)	斉藤 (近大)	永田 (近大)	小島 (東海)

グループ1

議長：生田 智也 副議長：藤田 恭輔 書記：伊藤 春海 杉山 開

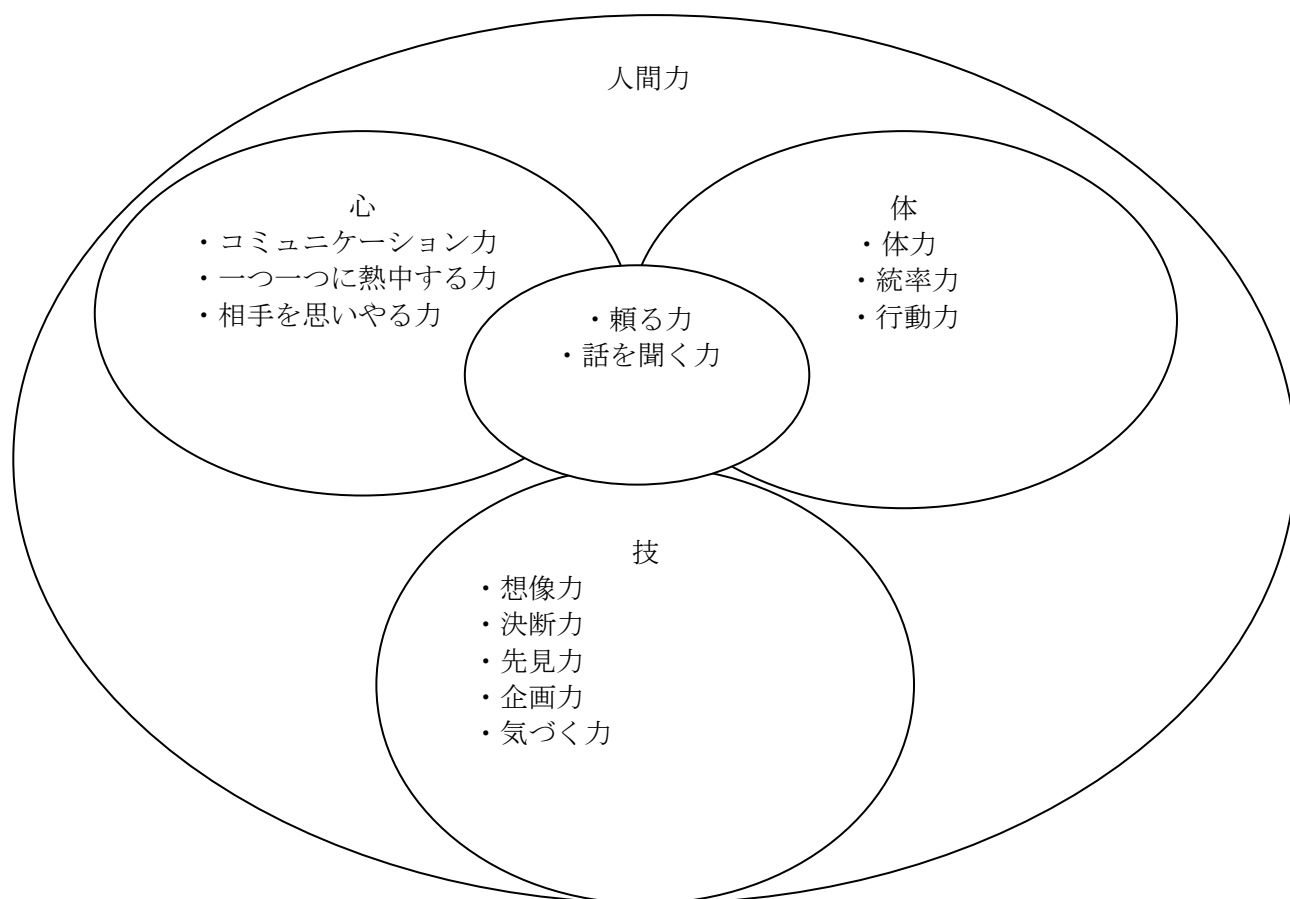
議題：「リーダーを中心としたまとまった団体を作るには」
「サークル（クラブ）の意識を高めるには」

〈分科会Ⅰ〉

- ① 自己紹介
- ② 自分たちの団体はリーダーを中心としてまとまっているかどうか？
体育会とサークルという2つの団体からの意見が出た。
体育会ではまとまっていると答えた学校は少数で、残りの大半の学校がまとまっていないという意見が聞かれた。
なぜまとまっていないのか？
 - ・把握できないくらい人数がいる。
 - ・今まで完全に独裁状態だった為、今環境づくりに取り組んでいる。
 - ・就活などで上級生が来てない。
 - ・コミュニケーション不足。
 - ・まとまってはいるがリーダーが来ていないので、副リーダー頼みになっているなど。大学間で議論しているときにその団体にリーダーを信頼しているかと聞いたところ、信頼はしていると答えた。
サークル内ではどうかということ聞いたところ、まとまっていると答えた大学が複数あり、少数意見としてまとまりきれていないという意見が聞かれた。
なぜまとまっていないのか？
 - ・人数が多く、全員が来ることがない。
 - ・上級生ではまとまっているが、下級生との意思疎通ができていない。
 - ・リーダーとしての自覚が薄い。
 - ・目標の統一ができていない。などの意見が聞かれた。
- ③ （上記の意見から）体育会・サークルでこういった場面でコミュニケーション不足と感ずるか？
 - ・意思が伝わらない、誰も注意をしない。
 - ・体育会の仕事ではコミュニケーションはとれているが、それ以外では関係が薄いなど。コミュニケーション不足を解消するには？
 - ・懇親会を定期的に行う（大規模だとじっくり話す機会が持てないので、小規模で行ったり、1対1でやってみたりする）。
 - ・スポーツをやりながらスキンシップをとる。
 - ・定期的に会議を開くなど。
- ④ 後輩への仕事の振り分けをする際に気を付けていることは？
 - ・成長してもらいたい所を見つけて決める（そこで弱点を克服してもらう）。
 - ・あらかじめ仕方を見せ、やりたいという人にやらせる。
 - ・その子の少し上のレベルのことをやらせる。
 - ・得意なことだけでなく、苦手なこともやらせる。
 - ・それを行ったことでのメリットを教えるなど。

〈分科会Ⅱ〉

- ⑤ 自分のモチベーションの上げ方については？
- ・負けたくない気持ちをバネにする。
 - ・今回のような研修会や会議に参加して他の学校やサークルの人と話すことで刺激をもらい、モチベーションを高めているなど。
- ⑥ サークル（クラブ）の意識を高めるには？
- ・いかに楽しくやれるか。
 - ・一人ひとりに気を配る。
 - ・ノート（メッセージボード）を使い、モチベーションを上げるとともに意識も上げる。
 - ・居場所や空間を作る。
 - ・きつくても「やろうぜ」ってなれるようにする。
 - ・ライバル心を芽生えさせる。
 - ・目標を統一するなど
- ⑦ まとめ
- この研修会のテーマである「力」を入れて、「～力」という形でまとめることとなり、リーダーに必要な力は何かを考えた。コミュニケーション力や体力、行動力などの力が出たところで、大きな人間力という枠の中で心・技・体の3つで分けていこうと考え、以下の図のようになった。
- 一人ひとりの人間が、全てをこなせるわけではないが、持っているものを出し合い、足りない部分を補っていくことで完成されていくものが人間力であると考えた。



グループ2

議長：浜島 捷宏 副議長：斉藤 萌 書記：中島 紗妃

議題：「周囲からついていきたいと思うようなリーダー像とは」
「リーダーシップをとる上での他人との接し方」
「個々の部員の能力の出し方」

〈分科会Ⅰ〉

① 自己紹介（他者紹介によるコミュニケーション）

② 各々のサークルの現状、その中でのリーダーの存在

ねらい…個人個人が現段階のサークルの状況を再認識し、また、他の人サークルの現状を知ること
とで多面的に考えてもらう。

サークルの現状

- ・一人ひとりの積極性が足りない
- ・意見交換の場がなく、コミュニケーション不足
- ・サークル内での温度差
- ・上下関係の厳しさ、甘さ

リーダーの存在（リーダーの立場から）

- ・役員にどのようにやる気を出させるかを常に考えている
- ・言葉よりも行動で示すようにしている
- ・部員の能力にあった役職に就かせることができるようにしている
- ・自分が“どのようなサークルにしたいか”という考えを明確に示す

リーダーの存在（リーダーを見る立場から）

- ・部員の個性を生かしてくれている
- ・うまく指示ができていないため、役員の仕事が散漫になっている
- ・役員のことを叱ることができない
- ・誰からも尊敬されるリーダー
⇒メリハリがある、弱いところを見せない、嫌われ役を買って出る

●分科会Ⅰまとめ

分科会Ⅰでは、まず各々のサークルの現状、その中でのリーダーの存在はどうかということを話し合い、自身のサークルの現状の再確認と、他の人のサークルの現状を知ることによってサークル・部員・リーダーのあり方を多面的に考えてもらった。自分のサークルでは当たり前だと思っている事が他のサークルではありえない事であるなど、自分のサークルと比較して考えることができたのではないだろうか。そこで、分科会Ⅱでは、分科会Ⅰで出たものから「リーダーシップをとる上での接し方」より「接し方」ということに着目してキーワードをピックアップし、「周囲からついていきたいと思うようなリーダー像」の答えを見つけていった。

〈分科会Ⅱ〉

③ 「接し方」に着目した時、部員・リーダーには何が必要か

ねらい…ひとつの集団として個々に関わっていく中での接し方を考える。

- ・あれこれ言うのではなく行動で示す
- ・気軽に相談に乗る
- ・言葉の使い方を工夫する
- ・メリハリをつけた上下関係をつくる

- ・雰囲気づくりをする
- ・自分の意志を確立している

④「自分がなりたいと思うリーダー像」

ねらい…議題の問いの答え

- ・他の部員の気持ちを考えて行動できる人
- ・メリハリのある人
- ・嫌われ役を買ってでる人
- ・自分と周囲の意見を大事にできる人
- ・尊敬される人
- ・言葉でなく行動で示すことができる人
- ・周囲をしっかりとみれる人
- ・責任感を持てる人

様々な意見が出たが、全ての「なりたいリーダー像」には、その要素として「接し方」は含まれていた。

⑤2分化して考える

ねらい…サークルはサークルでも目指すものの違いがある。「全国大会などを目指し本気でやっているサークル」「楽しくやっているサークル」と2つに分けてそれぞれのサークルの中でのリーダー像を考える。まとめ。

<本気でやっている部活・サークル>

- ・チームの伝統ややっていることを後輩に伝える
- ・威厳のある存在
- ・周囲がついてこられるような存在
- ・最終的な決定は責任をもってやる
- ・チームの方向性を常に示す

<楽しくやっている部活・サークル>

- ・周囲がとっつきやすい存在
- ・周囲が楽しめるようにする

このように、勝負を追求するか、楽しさを追求するかによって異なる部分もある。しかし、ひとつのチーム・組織の上に立つものとしては、リーダー像（リーダーに必要なもの）というのはどれも同じである。

- ・目標を明確にさせる
- ・方向性を示す
- ・全員の意見を聞く、まとめる
- ・一人ひとりを理解する
- ・自覚と責任をもつ

●まとめ・感想

一人ひとりの立場や、サークルの規模、目標としているものが異なっていることで、様々な意見を聞くことができた。理想とするものは、考えれば考えるほど大きな像になっていくと思った。しかし、現状をみつめたとき、必ずしも理想通りいくとは限らない。現実、現状の中で、それに即したものが、チーム・組織に本当に求められるリーダー像なのではないだろうか。

私たち自身もとても勉強になり、良い分科会になったと思う。

グループ3

議長：友貞 和己 副議長：松岡 雅仁 書記：下大菌 征宏

議題：「自治体、サークル、学校との連携のとり方」

〈分科会Ⅰ〉

- ① 自治体・サークルなどの運営・連携について
ねらい…運営の「現状」を見つめなおしてもらう
 - ・連携がとれていないところ
 - 過半数がやる気がないため、サークル員が委員会に来ない。連絡が取れていない。
 - ホウレンソウがうまくいっていない。
 - ・連携がとれているところ
 - ペナルティ制を導入している。
 - 週1または月1で会議を開き、サークルへの連絡を徹底している。
- ② 組織の連携をとるためには
ねらい…現状を踏まえて改めて連携について考えてもらう。
 - ・当たり前のことをやっていき、一人ひとりが仕事をして行けば組織がまとまるのではないかな。遅刻や無断欠席はしない。敬語等、一番の根本はあいさつ。
 - ・先輩後輩の壁を壊す。
- ③ 連携がとれている大学は？
ねらい…連携がとれている大学を参考にする
 - ・縦社会を最初に教え込む、先輩はもてなすもの。といったことを教え込む体制を整えている。
 - ・徐々に先輩と後輩の壁を壊し、仕事とプライベートでメリハリをつける。
- ④ 組織の連携を具体的に行うには？
 - ・まずは集まりの目的を明確にするなど、自治体内から改善を行う。
 - ・一人ひとりが責任を持って仕事をする。
 - ・常に、運営をよくするための工夫を凝らす。
- ⑤ 運営の工夫
ねらい…各大学の特色ある取り組みを知ること
 - ・ペナルティは減額に結びつくようにしている。しかし、何故この金額なのか説明を求められることもあるため、詳細に決めておく必要がある。
 - ・部長にとっても大きな責任を課す。
部長への負担が大きいかもしれないが、その分、部との連絡が行き届き、全体行動をスムーズに行えるように工夫している。全体的に効果的なやり方であるとの意見が多かった。

〈分科会Ⅱ〉

各大学の仕組みがあまりにも違い、取り入れられるであろう意見は分科会Ⅰで出尽くした。そこで分科会Ⅱでは、新しい議題について話し合った。

- ⑥ 魅力のある人の定義とは？
ねらい…理想とするリーダー像を話し合った結果、魅力のある人という意見にまとまった。その魅力のある人についての定義を深く考察してもらう。
 - ・自信があり、元気がよく笑顔な人。
 - ・礼儀正しく、飾らない自然体な人。
- ⑦ 先輩後輩との仕事の共同作業によるメリット、デメリット
ねらい…連携の一步は共同作業。それによるメリット、デメリットを考えてもらう。
【メリット】
 - ・後輩に仕事を割り振ることによって、自分も仕事内容を再度確認できる。
 - ・やりたくない仕事を割り振られたとしても、実際に行ってみることで様々な経験が出来る。
 - ・仕事を振られた当時は大変だったが、後々良い経験だったと気付くことが出来る。

【デメリット】

- ・思い通りにいかないうえ、慣れていない仕事のため手際が悪い。
- ・教えるのに集中していたら自分の仕事がおろそかになってしまう。
- ・いきなり仕事を振られると、何をしたいのか分からず、困る。
- ・仕事ができず運営に支障をきたす。いきなり難しい仕事を与えられても分からない。責任感が強い人だとつぶれてしまうことも。

【改善策】

- ・上級生が手伝ったり、周りがフォローしたりする。
- ・後輩に仕事を丸投げしない。

⑧ 後輩の教育について

ねらい…今までの内容を踏まえ、運営を引き継ぐ教育の在り方について発表してもらう。

- ・全員が全員の仕事を多少は理解しておき、役員が欠けても即座に補える状態を作っている。
- ・1年生からある程度役職を分けさせて、専門の先輩に付かせるようにしている。
- ・1年生は雑用として様々な仕事の基本を覚えさせる。2年生からは専門的にさせる。
- ・先輩が動いていたら、先輩に代わって仕事をしようとする姿勢を大切にする。
- ・教えようとするよりも、一緒に仕事をすることによって経験を積ませる。
- ・2年が1年の教育係。3, 4年は2年生を注意し且つ、1年も見るが注意は2年にしてもらう。

⑨ 感想・まとめ

組織同士の連携について話合いを行いました。学内や組織内の仕組みを理解していないと話することが出来ない議題だったため、分科会Ⅱからは人との連携について話を広げました。連携の基本は人と人との繋がりであり、ひいてはその人の魅力こそが連携の原動力になる、というのは本当に考えさせられる内容で、思いがけない展開となりました。

グループ4

議長：内田 守 副議長：赤川 知嘉子 書記：藤田 雄大

議題：「一人ひとりが責任を持てるようにするにはどうしたらいいか？」

〈分科会Ⅰ〉

①自己紹介

②身近にはどんな責任があるか？

ねらい…「責任」という言葉のイメージを膨らませてもらう

- ・時間、規則、約束を守る責任
- ・学校に通い、卒業する責任
- ・一団体の中での責任
- ・頼まれたことを最後までする責任

③責任とはどういうものか？(役割と責任を比較)

ねらい…「責任」という言葉の意味付けをする

- ・役割があってそれをした後の後始末が責任
- ・役割(与えられたもの)を果たすことが責任
- ・役割は他人から、責任は自分から
- ・役割を与える側、受ける側にも責任がある

④部や組織にとって責任感が重要な場面は？もしくは責任感のある人がいることによってよかった経験は？

ねらい…リーダー以外の人も責任感を持つことの重要性を確認

- ・学祭—全員が協力し、成功するためには一人ひとりが責任を持ち、モチベーションを高く持って仕事をする必要がある
- ・部活—先輩はモラルやプレーの面で後輩に見られている、後輩は部の規則を守る、スキルの上昇をめざす
- ・学校運営—先輩だけでなく後輩も責任をもって頑張ることが必要
—メンバーが生き生きと取り組むためにはリーダーがみんなのモチベーションをあげる
- ・アルバイト—店長はアルバイトの人に同じ失敗を繰り返さない責任を持ってもらう
- ・どのような場面においても先輩には組織の人の素質を見抜く責任がある

分科会Ⅰでは責任という言葉の意味、必要な場面を考えることで一人ひとりが責任感を持つことの重要性を再確認した。しかし、責任感が必要な場面に出くわしたとき、本人が責任感を持てるかどうかは別問題である。そこで分科会Ⅱでは責任感はどういうときに生まれるのか、そして責任感が必要な場面でのようにしてリーダーがメンバーに責任をもってもらえるのかを考え、答えを見つけていった。

〈分科会Ⅱ〉

⑤1人の人がどんなとき責任感が強くなる？弱くなる？

ねらい…1人の人でも責任感が強くなる場面と弱くなる場面があることを認識

人数(1人・複数人)、立場(先輩・後輩)、周りへの迷惑の有無、自分しかできない仕事かどうかで責任感が強くなったり弱くなったりするという意見がでた。また、社会人として仕事をするうえでは大なり小なり責任は生じているという意見を先生からいただいた。

⑥④で出てきた場面などの時に、どうやって責任感をもってもらえるか？

ねらい…議題の問いの答えを出す

- ・組織全員で同じ目標を立て、団結を目指す
- ・リーダーがやる気や興味関心を持てるような環境を作る
- ・組織のルール、役職を作る

- ・どうしてもというときにはペナルティを科す
- ・先輩が頑張っている姿、お手本を後輩に見せる
- ・後輩に仕事を与える際、その人に与えた意味があることを伝え、目的意識を持ってもらう

⑦責任感を持ってもらうために必要なリーダーの力とは？

ねらい…テーマの問いの答えを出す

質問について意見を出してもらい、その中からリーダーに必要なものを選んでもらった

- ・視野の広さ(全体を見る力)
- ・良い環境づくり
- ・頑張っている姿などをまわりに行動でみせる
- ・周りの意見を聞き入れ、理解する
- ・包容力
- ・実行力
- ・コミュニケーション能力

⑧ 感想・まとめ

一人ひとりの立場や所属サークルが異なることによって色々な意見を頂くことができ、私たちもとても為になりました。最終的な答えは1つにはなりませんでしたが、その分自分に足りないものは何かを考え、皆さんにも活用していただけたと思います。

グループ5

議長：飯田 輝瑠 副議長：青野 浩幸 書記：中村 静

議題：「一人ひとりが責任を持てるようにするのはどうしたらいいか？」

〈分科会 I〉

①自己紹介

②身近にはどんな責任がありますか？

- ・自分がまかされたポジションをしっかりとこなす責任
- ・連絡事項などをしっかりと伝える責任
- ・一人ひとりが責任の重要さを理解しあう責任
- ・雑用でもそれをしっかりと成し遂げる責任
- ・次に使う人が困らないように考え行動する責任

③組織にとって責任感が重要な場面は？またそれは何故か？

- ・部費の申請

→部費がないと活動ができない、学生課の人が困る

- ・試合などの時間厳守

→時間を守らないと他のチームに迷惑がかかる

- ・行事やイベントでの道具の貸し借り、教室の借用

→当日に困らないため

④どんな時に責任感が強くなる？弱くなる？

- ・自分一人で仕事を成し遂げるとき（強）

大勢で仕事を成し遂げるとき（弱）

理由：一人でミスをした場合は、その責任が全て自分に降りかかってくる。

しかし、大勢ではそれがない

- ・上司や上の立場の人からの頼まれ事（強）

友人の頼まれ事（弱）

理由：上司や上の立場の人は、特に信頼を失ってもなかなか取り返せない。

しかし、友人はある程度の信頼関係は保てる。

- ・興味がなくなる（弱）

理由：昔は、仕事をしながらでも楽しいことがあったが、今ではそれがなく、きつい。

別に失敗してもいいと思う。

分科会 I のまとめ…自分で考え、与えたものが責任である。責任とは、自分で心を込めたものを渡す。自分と相手はつながっている。仕事でも責任は自分と相手をつなげるもの

⑤分科会 I で出した問題をふまえて、どうやって責任感を持ってもらうか？

- ・自分の仕事を紙などにまとめて、貼り出す

→自分の頭だけでは意識が薄い

- ・ミーティングをこまめに行う。

→一人ひとりの意識の確認

- ・やりがいを見つける

→やりがいを見つけると責任感も持てる

- ・具体的な目標の設定

→具体的な目標だと責任も持ちやすい

- ・自分の仕事の役割を確認する

→確認すると意識も向上する

- ・イベントの参加

→対話などの対処をしなければならぬため、ある程度の責任が必要

・文禄の作成

→文禄を貼って周りからだれが部長なのかをわかるようにすることで、責任感も増す

⑥それを今後どう生かしていくか？

- ・もっと先輩、後輩が触れあう機会を増やして色々議論を進めていく
- ・目標の設定をミーティングで話す
- ・言葉だけでなく、自分の頑張る姿や笑顔を見せる
- ・温度差はあると思うが、互いに話し合い、情報を共有する
- ・温度差がある人の意見を聞き、その人の改善策を考える
- ・その人のいる意味を感じさせる、個人に合わせた仕事を与える
- ・ただ楽しむだけでもいいから一緒にいる時間を増やす

⑦そのために必要なリーダーの力とは？また責任とは？

「力」

- ・広く周りを見る力
- ・自分の意見だけではなく、周りの意見を取り入れる力
- ・全体を見ながらも、1人1人を見ていく力
- ・周囲をまとめる力、感情なども感じ取る力
- ・割り振ったり、自分のことをこなす力
- ・自分も下の人の立場に立ったつもりで、よい意見も悪い意見もしっかりと聞く力

「責任」

- ・責任とは自分に対してではなく他人に対するもの
- ・責任とは周りの状況に対してすべきこと、しなければならないこと。リーダーというのは、指示を出す点で人に責任を押しつける
- ・フォロー（責任に対しての責任）がリーダーの責任
- ・責任とは、与えるもの自分の中にあるもの

自分が仕事を与えた場合、もしそれができてなかったら自分にも責任はあるし、向こうにもある。

⑨ 想・まとめ

それぞれ自分たちの考える責任など、自分たちの実体験をもとにして会議を進めた。役割（部長や会長など）の名簿をみんなの見えるところに掲示する、具体的な目標の設定を常に考えるといった今後の学生生活に生かせる発言も多く、充実した時間になった。また、分科会の最後ではお互いの意見に対する評価をして全体的にまとめることができた。

グループ6

議長：吉田 昌平 副議長：笠井 周都 書記：斉藤 淳平

議題：「リーダーシップをとる上での部員との接し方。個々の部員の能力の出し方」

1. リーダーの現状について

①現在自分が所属している部活、サークル、団体はまとまっているかどうか

まとまっている・・・仕事の割りふりが出来ている。意見を交換する場を設けている。
飲み会を良く行う。

まとまっていない・・・一部しか仕事をしない。音信不通。叱れない。

2. あらゆるケースにおけるリーダーの対応について

〈ケース①〉

リーダーではない人が自分の指揮に対して不満があり、文句を言ってきたりはするものの、その人は団体をまとめることに優れており頼りになる、という場合

↓

話し合う。

キャプテンに任命されたということはその人が一番長けているものを持っているということだから、Aには自分にはない部分でサポートしてもらう。

リーダーを変えてみる。

目標設定したうえで、役割を決める。

〈ケース②〉

無理なく楽しくやっていくことをモットーとした愛好会の中に、きちんと練習をしたいと考える部員Bがいて、たびたび他の部員と衝突してしまい、他の部員たちはBを敬遠している、という場合

↓

目標を定める。

モットーにそぐわないのなら辞めてもらう。

練習の中で役割を作り、同じ環境で一人ひとりの負担を減らす。

部活として頑張ってみる。

〈ケース③〉

後輩部員がまだ自分のことをあまり信頼していないようで、指示に対して曖昧な反応を示し、たびたびイラッとしてしまう、という場合

↓

返事など当たり前のことはきちんと徹底して行ってもらう。

飲みに行くなど、コミュニケーションをとる。

〈ケース④〉

年齢が3つ年上の後輩がいて、自分の指示を受ける立場にあるが練習に対して不真面目で、やりづらさを感じる、という場合

↓

チームや自分の方針に悪い影響を与えているなら、年齢に関係なく指導する。

監督に相談する。

〈ケース⑤〉

リーダーではなく構成員という立場から、仕事を全然積極的に行おうとしない自治会の会長がいて、指示なども出してくれない、という場合

↓

会長は自治会の顔として立てておき、同じ学年の自分たちがサポート役として仕事をする。
自分が会長になる。
隠れて会長に指示を出す。

〈ケース⑥〉

以前から出席率の悪さなどからのけもの扱いされてしまっている部員Dを辞めさせたいという話が出ている、という場合

↓

連絡をとりやすい体制を作る。
話し合いの場を設ける。
グループに迷惑がかかるなら辞めてもらう。
辞めさせる方向だけでなく、Dの現状を聞くなどサポートもするべき。

〈ケース⑦〉

リーダーではなく自治会の構成員（2年）という立場から、2年生主体で行うイベントにおいて、今まであまり仲良く過ごしておらず意見もぶつかることが度々あった3年生の力も借りたものの、3年生は自分たちの思い通りにやらないのなら参加しないという気持ちを持っていて、やりにくさを感じている、という場合

↓

2年生が主体のイベントであることを3年生に説得して、3年生の意見も取り入れつつ、2年生主体で頑張る。
悪い方に向わなければ問題ない。
これを機に2年生と3年生の仲を修復する。

〈ケース⑧〉

音信不通が続き、コンタクトが全然取れない、という場合

↓

メールボックスなどを使ってみる。
各サークルを統括する立場として・・・廃部にする。
部費を出さないようにする。
実態調査。
練習場所を貸さない。

3. リーダーのあるべき姿について

①これまで考えてきたことを踏まえて、「リーダーシップをとる上での部員との接し方。

個人個人の部員の能力の出し方。」という議題について考える

「リーダーがそれぞれの部員の良さを引き出し、チームをまとめいくにあたって必要な心構えは、_____だと思いました。」

↓

部員一人一人を理解する。
部員の意見にもしっかりと耳を傾けられる。
根気強い姿勢。
目標に向かって部員を引っ張っていく。
余裕も持つ。

②最終的に「リーダーシップをとる上での部員との接し方。個々の部員の能力の出し方。」という議題においてどのような力が必要か

↓

コミュニケーション能力。
問題に対して柔軟に対応する力。
自己管理能力。

周りを見ることが出来る力。
雰囲気作り、笑いを生み出す力。

グループ7

議長：太田 親志 副議長：松田 耕聖 書記：永田 良介

議題：「リーダーシップをとる上での部員との接し方。個々の部員の能力の出し方」

ケース 2

あなたは、サッカー愛好会のリーダーです。部員はみんなサッカーが大好きで無理なく楽しくやっていくのが愛好会のモットーです。部員 B は愛好会の中でもサッカーに対する情熱が大きく練習熱心です。しかし、自己中心的な面が強くほかの部員と度々衝突しています。部員 B はあんまり気にしていない様子ですがほかの部員が部員 B を敬遠しておりあなたはサッカーという競技がチーム競技なだけに問題性を感じています。このような時あなたはどのような行動をとりますか。

意見 ・ B の態度を改善させる。

- ・部員 B と話し合い、サークルのモットーに従い、自己中心的な考え方を注意する。
- ・サッカーはチームワークのスポーツということを部員 B に気づかせる。
- ・リーダーと部員 B が一対一で話し合い、部員 B の悪いところを指摘する。どうしても性格まさは変わらないので今度はサークル全体で話し合う。

まとめ

サークルのモットーを確認し、部員 B との話し合い、今後について話し合う。

ケース 3

あなたは、バレー部のリーダーです。部員 C はあなたの一つ下の学年です。しかし、あなたのことをあまり信頼していないようで、指示に対して曖昧な反応をしたり、返事が曖昧だったりあなたは度々イラっとしています。そんな感じで関わることの少なかったために部員 C のことはよく知らず、あなた自身このままでいいのかと感じています。このような時あなたはどのような行動をとりますか。

- 意見 ・部員 C のことをよく知るために一緒に飲みに行く。部員 C のことを知った上で、注意をする。
- ・部員 C のことをよく知り、部員 C の本質を知る。
 - ・部員 C に直接自分のことをどう思っているか聞く。
 - ・部員 C がはっきり返事できるように先輩が指導する。
 - ・部員 C の態度を治す。
 - ・何度も何度も話し合う。
 - ・信頼を得る。

まとめ

部員 C のことをもっとよく知り、互いに思っていることを話し合い、上下関係をはっきりさせる。

ケース 4

あなたは、バスケ部のリーダーです。あなたの部活には学年は下ですが年齢は三つ上の後輩がいます。その後輩は、学年こそ下なのであなたの指示を受ける立場にあるのですが、練習に対して不真面目で、みんな練習に真剣に取り組んでほしいと思っているあなたにとっては、とてもやり

づらく感じる存在です。このような時あなたはどのような行動をとりますか。

意見

- ・大学では年は関係なく、学年が上の人が先輩でいいと思います。この場合は、後輩が受け入れるしかないと思います。
- ・その後輩に対してソフトに接する。
- ・学年が下なのでしっかりしてもらう。
- ・リーダーを中心となってしっかりまとめる。

まとめ

年齢に関係なくリーダーが中心となって部員 C と話し合う。その後は、部員 C の態度を見て今後を判断する。

分科会 まとめ

皆さんがこの分科会でリーダーにとって必要な力はどのようなものだと思いますか。

- ・リーダーに必要な力は観察力、分析力だと思います。理由は、問題となっている人の人柄や性格、長所、短所などを把握したうえでより良い解決策を見出す人がリーダーにふさわしいから。
- ・他の人に気遣いができ、話し合いをする中で自分の意見をしっかりと持ち話し合いをまとめる力のある人。
- ・観察力。あと、大きな器を持っている人がふさわしいと思う。相手をよく見てどっしり構えられるリーダーが理想。
- ・一人一人にあった柔軟な対応のできる人。その人に合った対応や指導ができる人がリーダーだと思うから。
- ・会議、意見交換がしっかりできる人。
- ・大きな視野で観察する力。皆さんが言ったように、部全体を客観的に見ることのできる人がリーダーにふさわしいと思うから。

グループ 8

議長：笹渕 翔吾 副議長：久富 漢子 書記：小嶋 美咲

議題：「学校をどう盛り上げるか」

〈分科会 I〉

初めに・・・自己紹介

1、学校を盛り上げるということは行事を盛り上げることにつながる。では行事を行う上での問題点はなんだろうか。また、その解決方法はなんだろうか。

1-1、それぞれの学校行事はどのようなものがあるのか。

- ・学園祭
- ・球技大会(希望制、年に2回開催など)
- ・花火大会
- ・フリーマーケット
- ・サークルでの声だし
- ・七夕祭り
- ・懇親会、親睦会

1-2、参加人数の把握はしているか。人数集めの方法。

- ・球技大会を2回開催しているが、1回目は100人前後のチーム、2回目は2名ごとのチームとしている。
- ・チーム人数を指定しているが、参加人数の把握はできていない。人数集めにはポスターを張ってしている。
- ・人数は100人前後と把握しており、生徒には大会の内容をメールで通知し呼びかける。
- ・全校生徒の3割が参加している。ポスターで呼びかけ。
- ・参加人数を限定し、メールや掲示板で呼びかけているが、あまり良くない。
- ・300人でクラスごとでの参加者がほとんど。よって1年生はほぼ全員参加するが、3、4年生はほとんど参加していない。学内行事は週2回学食で呼びかけを行っている。
- ・参加人数は把握していない。人数を集めるために賞金で釣るようにしている。

1-3、運営における問題点(シチュエーション：球技大会)

- ・同じチームで参加するため公平さがなくなる。スポーツができる人ばかりでしてしまうため、どのようにしてチームを決めるのか。
- ・人数が集まらない。
- ・ルールを分かってももらえない。(主に外国人参加者)
- ・人数を限定する場合、もれた人はどうするのか。
- ・アンケートによる競技種目を決定する場合、毎年同じ種目になり、飽きないのか。

<教職員の関与について>

- ・人数が少ないので自然に関与することになる。
- ・学生がやりたいことに対して危険を伴うかどうか等を聞いて、なるべく答えるようにしている。
- ・基本的に関与はしていない。

1-4、実際に運営してみて他校の意見を聞きたいこと。

- ①文章のみのポスターを制作していたのだが、他校はどのようなポスターを制作しているのか。
- ②経験者と未経験者を振り分けるのか。
→交流がメインのため経験は問わないようにする。
- ③参加することに意義があるのか、それとも勝つことなのか。
→均等にしなければいけないが、基本的に楽しんでもらいたいので実行側は関与しないほうがよいのでは。一人ひとり目的が違うので、縛らないほうがいいと思う。

- ④留学生との交流会の懇親会とは具体的にどのようなことをしているのか。
→出身の国の料理を食べる、ゲームなどをして遊ぶ。「～週間」というものを設置し、その国の文化を留学生が紹介する。
- ⑤学園祭の目玉は何か。
→・有名人のライブやトーク(チケット制のところも有)。芸人のコントや花火
・学年、学科で必ず出店する模擬店
・国の名物料理
・一般の方も参加できるビンゴ大会、のど自慢、ダンスコンテスト、Ms.コン
・サークルの出店、苗木の販売
- ⑥学外向けの宣伝活動はどのように行っているのか。
→・ポスターやチラシ、HP
・北九州地区大学の報告会、県内の大学にポスター等を配る
・ラジオ放送、TV 放送、雑誌
・地域の自治会で宣伝
- ⑦模擬店の出店は強制なのか。
→・ゼミ、サークルごとに制限
・必ず出店してもらうが、夏祭るか学園祭のどちらかを選んでもらう
・希望制
・クラスは強制だが、サークルやゼミは希望制
・コースや、友人同士でも出店可能
- <希望制にした場合、どれぐらいの人数が参加しているのか>
・毎年決まっているサークルなどが出店しているので、人数の差はない。
・伝統で出店しているところや、コンテストを開いている。
- ・分科会Ⅰでは、自分と他校の現状を把握するためにどのような行事が行われているのか、共通して開催している行事は何かを知り、参加者数など基本的なところでの違いを知ってもらった。また自分たちが抱えている問題点を出してもらい、他者から意見をもらうことで今後の運営に役立てもらえるようにした。しかし実際は解決方法のアイデアだけでは解決しない。それを実行するにはどのような力が必要なのかを分科会Ⅱで話し合った。

〈分科会Ⅱ〉

- 2-1、学園祭や球技大会以外で開催している学校行事。その行事の主体
・クリスマス点灯式。(シスター)
・新入生の声だし、役員と新入生の飲み会。(生徒)
・年2回の学内献血。(生徒)
- 2-2、行事のリーダーが自分でない場合、何ができるのか。
・友達などに積極的に呼び掛け、かつ参加する。
・学校や運営との意思の疎通ができているか確認。学校側と運営側の思っていることが違うと間違った宣伝をしてしまう可能性があるから。
- 2-3、具体的にどのような方法で可能にするか。
・昼食時に呼び掛けを行う。ポスターや行事のことを詳しく書いた紙を配布。SNS を使って宣伝。
・行事に関するノートを作り、事務側に回す。月一で教職員と会議を行う。委員会議
<教職員が関与できる場合、どのような企画なら協力したいと思うか>
・企画書や組織がしっかりとできており、その生徒が信頼できる人なのか。
・いろんな行事を企画してもらいたいので、基本的にはすべて関与したい。
・全員参加できるようなものであれば全て。
- 2-4、執行組織について。気になるところの質問
<<各校組織図を書いて説明>>
・学友会の運営について
・学生会と学園祭実行委員会は分離しているのか
- 2-5、所属している組織が運営している行事

- ・球技大会、学園祭、フレッシュマンフェスタ
- ・予算草案、決算

2-6、行事を盛り上げるリーダーシップにはどのような力が必要か。それはなぜか。

- ・コミュニケーション能力…みんなの連帯をとることで同じ方向を向き、みんなで頑張ることが出来るから。しかし、度が過ぎないように注意が必要。

＋α

- ・まとめる力…会議の能力をまとめる。部員の意見を聞く。
- ・人望が厚い、分け隔てなく人と接する力…人が集まらないから。
- ・人を巻き込む力…自分だけでなく全校生徒を巻き込んで楽しむことができるから。
- ・社交性…話し合いがまとまらない。
- ・判断力、指示をする力…指示ができない。

終わりに…分科会Ⅲで発表する内容のまとめ(各自)

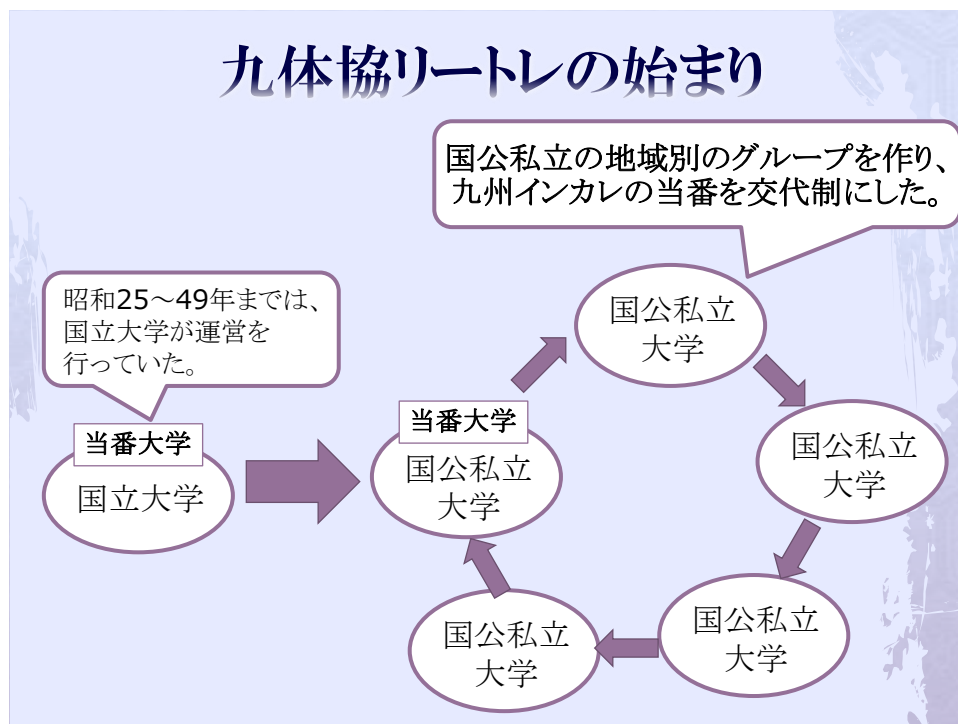
- ・分科会Ⅱでは分科会Ⅰで出た行事やその問題点をもとに解決するためのアイデアを実行するための力とはなにかを考えた。途中組織の形式を出してもらったのは、どのような役職に就いている人が参加して、どのような行事を運営しているのか知ってもらいたかったからである。十分にイメージがわくような状況にすることで、最後に必要な力の意見を出しやすくした。

<感想、まとめ>

今回、大学の規模ごとに分科会を行ったので、意見が合うこともあったのですが、それぞれ行事に工夫を凝らして運営していることがわかったので、良い刺激になったと思います。私たち自身参考したい意見が出てきたので、取り入れたいと思います。行事を見つめなおすことでどのようなリーダーシップが必要なのかが見えてき、今後の行事運営に生かせる内容になりました。

◆◆ 講評 ◆◆

<インカレを盛り上げる為には>



<九体協リートレの始まり>

年々巨大化する九州インカレの大会運営の困難性が指摘され、昭和50年に、国立大学だけで行っていた運営を、国公立大学の地域別にグループを作り、運営を交代制にすることで、九州インカレの円滑化を図った。

その際、学生の自主的参加による体育大会の計画・実施に資するための研修会を企画し、新規事業とした。これが九州地区大学体育協議会体育系学生リーダーズ・トレーニングの始まりである。

つまり、元々は九州インカレを運営する力をつけてもらうための研修会だった。
現在は幹部の資質向上、各大学の連携を図るために行っている。

<代表者会議>

代表者会議とは、元来、九州インカレを学生の手で運営していくために発足した機関だった。

現在は、各グループから2名ずつ代表者が集まり、九州における大学体育会での問題点や、リーダーズ・トレーニングについて話し合う機関となっている。

今年のリーダーズ・トレーニング以外の議題は、「報告書の電子化」と「九州インカレを盛り上げるためにはどうすればいいか」が挙げられた。

九州インカレ

	第1回	全盛期 第25回～30回 (昭和50年代)	現在 第60回 (平成22年度)
参加大学数	22	約65	78
参加学生数	2,118	約10,000	7,147
種目数	15	27	19

<九州インカレ>

昭和25年に始まり、第1回目は参加大学は22校、参加学生数は2118名、種目数は15種目だった。

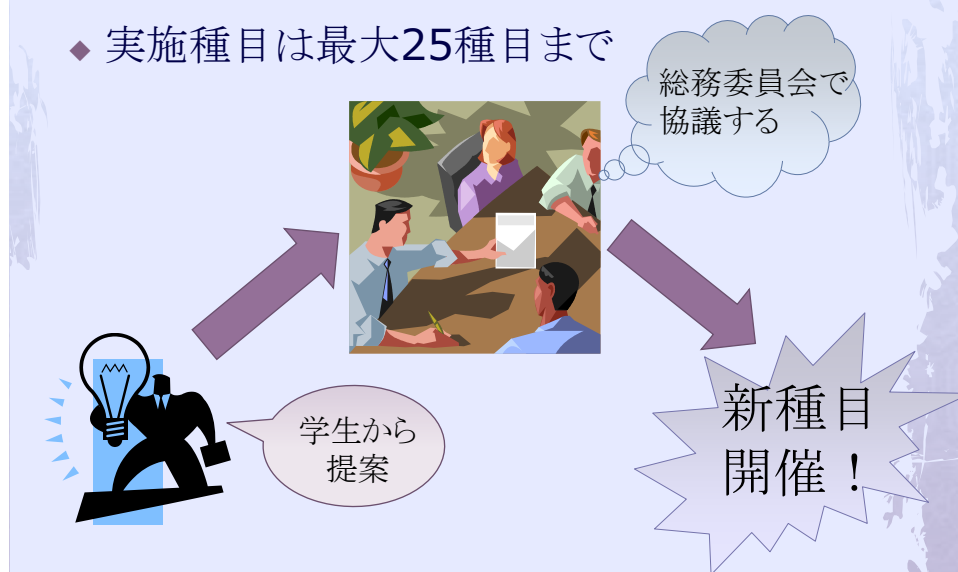
一番盛り上がっていた全盛期は、昭和50年代で、参加大学は約65校、参加学生数は1万人を超え、種目数は27種目もあった。

それから約30年たった今現在、参加大学は78校と増える事が出来たが、参加学生数が7千人ほどに減っている。

種目数も19種目に減っている。

九州インカレ

◆ 実施種目は最大25種目まで



この年々減っているという九州インカレの現状を打開する案を、代表者会議で話し合っており、

九州地区大学体育協議会規約施行細則の第3条によると、

(1) 実施種目は25種目を超えないものとし、原則として種目の変更は行わないものとする。ただし、学生の提案に基づき総務委員会が承認した種目については、25種目の範囲内において種目の入れ替えを認めることができるものとする。

と書いてある。

年々流行のスポーツも変わっていて、昔の人気だったものが、現在人気がなかったり、逆に昔人気がなかったものが現在人気があったり等、時代の流れもある。

もし、インカレの種目に入れてほしい種目があれば、学生から提案してもらえれば、総務委員会で協議をし、承認されると、正種目として開催する事が出来る。

現在、19種目なので最大6種目増やす事が可能。

このように新しい種目を増やして九州インカレを盛り上げていこうと考えている。

九州大学から各大学の事務に、メールを送る。そのメールにはアンケートも添付。

アンケートの内容に関しては、

○現在インカレに参加しているかどうか

○自分たちの所属しているサークルがインカレにあるかどうか

○ないのであれば、インカレに入れてほしいかどうか

九州地区が全国的にリーダーズ・トレーニングを行っているのは珍しく、九州だけとは思いますが、やはりこのような事は、ずっと続けていくべきで、九州委員会が盛り上げていく事で、日本全体が明るくなると思うので、みんなで協力していきたい。

<第7グループの運営について>

【12月】

熊本大学で行われる代表者会議で、昨年第6グループが運営を担当した平成22年度のリーダーズ・トレーニングの反省を行う。

その後顔合わせをし、定例会を行う。

【1月】

第5・6グループの資料等の確認を行う。

【2月】

サブテーマの決定や日程の仮決定を行う。

リーダーズ・トレーニング経験者が少なかったこともあり、イメージを持ってもらうため、昨年のリーダーズ・トレーニングのビデオ上映を行う。

代表者会議にて進捗状況の報告を行い、他グループから分科会のテーマについての案を貰う。

【3月】

この月から本格的に活動開始。

分科会とレクリエーションについて話し合う。

各大学の引き継ぎ等も落ち着いたため、ここで一度懇親会を開いている。

【4月】

レクリエーションの種目について話し合う。

レクリエーションは福岡県立大学が担当を受け持つ。

【5月】

アンケート用紙の作成。アンケートの担当は九州産業大学が受け持つ。

アンケートの項目案については、代表者会議でも意見を頂いた。

実際に分科会のシミュレーションを行い、どのように進行していくか、どのような内容にするか、議論を行う。

スタッフジャンパーのデザイン、注文等を、福岡女子大学に担当してもらう。

【6月】

リーダーズ・トレーニングの役職の割り振りを行う。懇親会の担当、レクリエーションの担当等。懇親会の内容や反省会を行うかなど、具体的な内容を徐々に決めた。

【7月】

夏休み中に行う施設の下見への参加者を決め、下見でどのような事を見聞きすべきか話合った。また、各分科会の議長、副議長、書記、裏担当を決めた。

【8月】

本番の係り決め。生活担当や受付、司会等、細かい割り振りまで決める。
ここで、やっと分科会Ⅳの内容が決まる。

【9月】

施設の下見を行った。合宿は一泊二日で、各大学1、2名ずつ参加し、約10名で行った。
下見終了後、全員で定例会を行い、合宿の報告会やスタッフの最終確認を行う。
ここでリーダーズ・トレーニングの参加者が決定したこともあり、再び懇親会を行う。

【10月】

参加者名簿の作成。

これは、事務的な作業で、部屋の割り振り、懇親会、レクリエーション、分科会の割り振り等。その割り振りでも、皆が打ち解けるように、体育会であれば野球やラグビーを集め、部屋の中でも情報を共有できるように考えて割り振った。

予算の振り分け、分科会の打ち合わせ、分科会で議長・副議長をもとに、事前に個々で会い、打ち合わせを行った。平成22年12月～平成23年10月まで、約15回の会議を行い、今回のリーダーズトレーニングを迎えた。

【今回のリーダーズ・トレーニングで工夫・改善した点】

- ・自由時間の削減
→リーダーズトレーニングだから、学校の代表として来ているので、メリハリのある動きをしてほしいということで行った。
- ・分科会を4回に
→昨年までは2日目から3回行っていた分科会を、1日目の受付時間を早くする、自由時間を削減するといった工夫で、1日目に分科会1回分の時間を設けることが出来た。
2日目以降も、途中参加受付を分科会と同時進行で行う事により、例年よりも長く分科会の時間を設けることが出来た。
- ・分科会Ⅰ・Ⅱの議題の振り分け
→同じ議題でも、大規模の学生数が多い大学と、短期大学などの小規模の大学が一緒に話しあっても、出る答えが違うのではないかと考えた。
そこで、規模別に大学を割り振り、出来るだけ話が合うようにした。
また、どの大学でも起きているような問題点を議題にすることにより、話し合った内容をそのままリーダーズ・トレーニング後に活用できるようにした。
- ・分科会Ⅲ
→分科会Ⅰ・Ⅱの報告会を行う。
分科会Ⅰ・Ⅱで話し合った教室のメンバーを1、2名ずつ、計8組のグループに分け、分科会Ⅲの8教室それぞれに割り振った。
こうすることによって、自然と全員が発表することになるので、一人ひとりの発言力、責任感の植え付けが出来るのではないかと考えた。
- ・分科会Ⅳ

→各グループで交流会等を行う。

私たち第7グループは、元々リーダーズ・トレーニングへの参加が活発ではなく、運営が始まるまで、交流をする機会が全くなかった。

運営が決まり、初めて顔合わせをして、お互い微妙な雰囲気の中会議が始まって…正直、前半は会議がスムーズに進まなかった。

もし、元々顔見知りで、お互いの存在を知っていれば。リーダーズ・トレーニングの運営がスムーズにいくだけでなく、普段も困った時に助け合えるのではないかな。

そんな思いから、分科会Ⅳでは各グループに割り振り、交流会をしてもらうことにした。

また、代表者会議へ参加する大学を決めてもらった。

- ・部屋割りの工夫

→部屋割りだけでなく、各分科会の割振りにも共通することだが、なるべく共感でき、互いに成長できるメンバーで組むようにした。（役職、サークルを揃える等）

- ・3日目の反省会の削除

→疲れも溜まっている中、反省会を行っても眠くなるのではないかな。という考えから、反省会を削除した。1日目に配布した冊子にアンケートを挟んでおき、各自自由に書き込めるようにしておくことで、時間の短縮にもつながった。

アンケートはリーダーズ・トレーニング後にまとめ、次年度に活かせるようにした。

- ・3日目に講評を設ける

→昨年までは3日目に報告会、反省会を行っていたが、報告会は分科会Ⅲに、反省会はアンケートにすることで、講評という新しい時間を設けることが出来た。

今までサポートしてくださった当番大学の学生、教職員の方々、心よりお礼を申し上げます。このリーダーズ・トレーニングは、去年から学生代表として、始めは戸惑っていたが、徐々に皆さんに協力してもらい今日に至っています。

参加していただいた方にも円滑にすむようにご協力いただき、ありがとうございました。

◆◆ レクリエーション ◆◆

雨天時 ☆九体協リートレレク☆ (場所：体育館・プレイホール)

♪ドッチビー♪

<レクリエーションの流れ>

- ① 準備
- ② 挨拶
- ③ ルール説明
- ④ 選手宣誓
- ⑤ レクリエーション開始
- ⑥ 結果発表
- ⑦ 表彰式
- ⑧ 挨拶

<ルール>

(→主要な部分はドッチボールのルールを採用しています。ボールがビーに変わったものだと思います。ただし、一部特殊ルールを使用しますので、注意してください。)

1 試合 10 分 (前半 5 分、後半 5 分)

- ・服に当たった場合はアウト (複数同時アウト有り)
- ・顔に当たった場合はセーフ
- ・当たっても地面に落ちる前にビーを拾えばセーフ
- ・原則内野 6 人、外野 2 人 (少ない人数のチームには、当番校のスタッフを補充し人数を合わせます。)
- ・外野が敵内野に当たったとしても、内野には戻れない
- ・横当てあり
- ・内野がいなくなるか、5 分経過後内野の数が多い方が勝ち

(→内野の数が一緒の時はドロー)

- ・終わったら内野以外を座らせて人数確認！

*コート

コートの広さ→1 コート、バレーコートの半分 (バドミントンコート)、
体育館・プレイホールの全面を使って 4 コート

〈準備物〉

ストップウォッチ (4)、笛 (4)、ソフトビー (8)、ライン用テープ、記録用紙

*反省点

試合の直前になって、審判の立ち位置、選手がどこに整列するか、どちらが先制攻撃になるのかなどをあわてて決めたため、その分選手の人たちを待たせてしまう形になった。あらかじめ、審判の人たちに立ち位置、選手をどの場所、またどのタイミングで整列させるかを考えておく必要があった。

また、回収したアンケートには体育館の 3 面が中心で、プレイホールの 1 面が少し孤立していたと書かれていた。

しかし、アンケートから見ても全体的にみんな楽しめたと書かれていたので今回はある程度成功したのではないかと思います。

＊講評

上でも述べてあるように、改善すべき点は多くあった。しかし、レクリエーション全体を通して大きなミスもなく、満足できる結果だったと思う。また、当初の予定では1位から4位まではじゃんけんで決めるはずだったが、時間を見て、準決勝、決勝ができると判断し急遽予定を変更してじゃんけんでなく試合を行った。

そのため、選手だけではなく、第7グループも現在の状況からその先のことを見据え判断していく力がこのレクリエーションで身についたのではないかと思う。

**平成 23 年度九州地区大学体育協議会
体育系学生リーダーズ・トレーニング
実行委員名簿（第 7 グループ）**

大 学 名	学 年	氏 名
近畿大学産業理工学部	3	内田 守
近畿大学産業理工学部	3	下大 蘭 征宏
近畿大学産業理工学部	2	飯田 輝瑠
近畿大学産業理工学部	2	大賀 博貴
近畿大学産業理工学部	2	笠井 周都
近畿大学産業理工学部	2	永田 良介
近畿大学産業理工学部	2	松田 耕聖
近畿大学産業理工学部	1	斎藤 淳平
近畿大学産業理工学部	1	藤田 雄大
近畿大学産業理工学部	4	友貞 和己
福岡女子大学	3	赤川 知嘉子
福岡教育大学	3	浜島 捷宏
福岡教育大学	3	斉藤 萌
福岡教育大学	2	中島 紗妃
福岡教育大学	2	中村 元気
福岡工業大学	3	生田 智也
福岡工業大学	3	松岡 雅仁
福岡工業大学	3	小林 南乃
福岡工業大学	2	高橋 勇矢
福岡工業大学	2	伊藤 春海
九州産業大学	3	藤田 恭輔
九州産業大学	3	杉山 開
福岡県立大学	3	青野 浩幸
福岡県立大学	3	太田 親志
福岡県立大学	3	吉田 昌平
東海大学福岡短期大学	2	大羽 麻季
東海大学福岡短期大学	2	笹 淵 翔吾
東海大学福岡短期大学	2	中村 静
東海大学福岡短期大学	2	小島 美咲
東海大学福岡短期大学	2	久富 漢子

平成 23 年度学生代表者会議名簿

グループ	学校名	氏名	学年
1	九州女子大学	杉森清美	4
	九州工業大学	山本雄貴	1
2	久留米工業大学	佐藤賢弥	4
	筑紫女学院大学	松尾弥佳	3
3	西南学院大学	桐島諒	4
	福岡女学院大学	松永美由紀	2
4	宮崎大学	三浦一輝	3
	宮崎大学	甲斐友宝	2
5	長崎大学	松岡広明	2
	長崎純心大学	亀崎夏海	2
6	熊本大学	安田未来	4
	熊本大学	新福拓也	3
7	近畿大学産業理工学部	友貞和己	4
	近畿大学産業理工学部	内田守	3
8	鹿児島国際大学	牛島健太	2
	志學館大学	現王園陽貴	3
本部校	九州大学	高橋睦美	3

添 付 資 料

九州地区大学体育協議会規約

第1章 総 則

(名称)

第1条 本会は、九州地区大学体育協議会と称する。

(目的)

第2条 本会は、九州地区における大学の体育及びスポーツの普及、発展に寄与するとともに、併せて九州地区大学相互の親睦を図ることを目的とする。

(本部)

第3条 本会の本部は、九州大学に置く。

(事業)

第4条 本会は、第2条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 九州地区大学体育大会（以下「体育大会」という。）の開催
- (2) 九州地区大学体育系学生リーダーズ・トレーニング（以下「リーダーズ・トレーニング」という。）の開催
- (3) 大学体育振興のための調査研究及び研究会等の開催
- (4) その他本会の目的を達成するために必要な事業

第2章 構 成

(組織及び構成員の役割)

第5条 本会は、九州地区の大学をもって組織し、その学生、教員及び学生部関係者等を構成員とする。

2 前項に規定する各構成員の役割は、次のとおりとする。

- (1) 学生は、教員及び学生部関係者の指導・助言を受けて、体育大会及びリーダーズ・トレーニングを主体的に企画・立案し、実施するものとする。
- (2) 教員は、体育大会及びリーダーズ・トレーニングの企画・立案及び実施に当たり、教育的な指導・助言を行なうとともにその実施を側面から援助するものとする。
- (3) 学生部関係者は、体育大会及びリーダーズ・トレーニングの企画・立案及び実施に当たり事務的または教育的な指導・助言を行うとともに教員と協力して実施に係る具体の事務処理に当たり、その実施を側面から援助するものとする。

(入会及び退会)

第6条 本会への入会又は本会からの退会は、これを本部に届け出て、総務委員会の承認を得なければならない。

第3章 役 員

(役員)

第7条 本会に、次の役員を置く。

- | | | | | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (1) | 会 | 長 | 1 | 名 | | | | | |
| (2) | 副 | 会 | 長 | 1 | 名 | | | | |
| (3) | 顧 | | 問 | | | | | | |
| (4) | 参 | | 与 | | | | | | |
| (5) | 評 | 議 | 員 | | | | | | |
| (6) | 総 | 務 | 委 | 員 | 長 | 1 | 名 | | |
| (7) | 総 | 務 | 副 | 委 | 員 | 長 | 1 | 名 | |
| (8) | 総 | 務 | 委 | 員 | | | 若 | 干 | 名 |
| (9) | 監 | 査 | 委 | 員 | | | 3 | 名 | |

(役員の仕事)

第8条 役員の仕事は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、会務を統轄する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその代理となる。
- (3) 顧問は、本会の重要事項に関し、会長の諮問に応ずる。
- (4) 参与は、本会の運営に関し、会長の諮問に応ずる。
- (5) 評議員は、第12条に規定する評議員会を構成し、本会の基本方針を審議決定する。
- (6) 総務委員長は、評議員会の議長となるとともに評議員会の基本方針に従い、本会の運営に関する諸般の事務を掌理する。
- (7) 総務委員は、第13条に規定する総務委員会を構成し、総務委員長を補佐する。
- (8) 監査委員は、会計を監査する。

(役員の選出)

第9条 役員の選出等は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、本部校の学長をもって充てる。
- (2) 副会長は、体育大会当番大学のうち大会の実施企画及び運営等の総括に当たる大学（以下「体育大会事務局大学」という。）の学長をもって充てる。
- (3) 顧問は、会長及び副会長以外の加盟大学の学長をもって充てる。
- (4) 参与は、加盟大学の副学長、学生部長、事務局長及び学生部次長（相当職を含む。）をもって充てる。
- (5) 評議員は、加盟大学の学生部関係者、体育教員及び学生代表各1名をもって充てる。
- (6) 総務委員長は、本部校の学生部長（相当職を含む。）をもって充てる。
- (7) 総務副委員長は、体育大会事務局大学の副学長又は学生部長をもって充てる。
- (8) 総務委員の選出は、次のとおりとする。

区 分 項 目	学生部関係者	体 育 教 員	学 生 代 表
評議員会において 選出される者	3 名	3 名	3 名
本 部 校	1 名（主務課長）	1 名	1 名
体 育 大 会 当 番 大 学	3 名	3 名	3 名
体 育 大 会 次 期 当 番 大 学	1 名	1 名	1 名
体 育 大 会 次 次 期 当 番 大 学	1 名	1 名	1 名

- (9) 監査委員は、評議員会において設置者別に選出された3名をもって充てる。

(役員名簿)

第10条 加盟大学は、毎年4月15日迄に顧問、参与及び評議員の名簿を本部校に提出するものとする。

(役員の任期)

第11条 第9条第8号及び第9号の評議員会選出委員の任期は、選出された年の翌年の1月1日から2年とし、再任を妨げない。ただし、学生代表に係る委員の任期は1年とする。

- 2 第9条第7号の総務副委員長及び前項以外の総務委員の任期は、体育大会当番大学が体育大会の開催を担当する年を基準として、その年の1月1日から1年とする。

- 3 第7条第5号、第8号及び第9号に規定する役員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

第4章 機 関

(決議機関)

第12条 本会に評議員会を置き、本会の決議機関とする。

- 2 評議員会は、毎年5月に会長が招集し、体育大会事務局大学において開催する。
- 3 評議員会は一大学を構成単位とし、3分の2以上の出席をもって成立する。ただし、委任状による出席を認める。
- 4 評議員会における議決権は、一大学1票とする。
- 5 評議員会の議事は、出席大学の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。
- 6 評議員会の開催に係る事務及び運営等は、本部校及び体育大会当番大学が協力して処理する。

(執行機関)

第13条 本会に総務委員会を置き、本会の執行機関とする。

- 2 総務委員会は、本会会務の執行について、評議員会に対し連帯して責任を負う。
- 3 **総務委員会は、毎年3月及び5月に総務委員長が招集して開催する。**
- 4 総務委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。ただし、総務委員会の開催通知を受けて欠席した委員は、委任状を提出して出席したものとみなす。
- 5 総務委員会における議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合は、委員長の決するところによる。

(専門委員会等)

第14条 総務委員会は、必要に応じて専門委員会等を置くことができる。

(構成員の格付け及び責任性)

第15条 評議員会及び総務委員会においては、学生、体育教員及び学生部関係者はすべて同等の資格及び責任を有する者としてその運営に一致協力するものとする。

第5章 会 計

(経費)

第16条 本会の経費は、加盟大学の分担金、事業収入、その他をもってこれに充てる。

(負担割)

第17条 加盟大学分担金の各大学負担割については、別に定める。

(会計年度)

第18条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終るものとする。

第6章 規約改正

(規約の改正)

第19条 この規約は、総務委員会の提案に基づき評議員会の議を経なければ改正することができない。

第7章 施行規則

(施行細則)

第20条 この規約の施行に当たり必要な細則は、総務委員会の提案により評議員会が定める。

第8章 附 則

1. 九州地区大学体育協議会規約(昭和33年11月1日制定昭和48年4月1日第5回改正)は廃止する。
2. 本規約は、昭和50年1月1日から施行する。
3. 本規約は、昭和50年5月6日から施行する。
4. 本規約は、昭和57年1月1日から施行する。
5. 本規約は、昭和58年5月27日から施行する。
6. 本規約は、平成10年4月1日から施行する。
7. 本規約は、平成16年5月19日から施行する。

九州地区大学体育協議会規約施行細則

(分担金)

第1条 九州地区大学体育協議会規約（以下「規約」という。）第17条に規定する加盟大学の分担金は、次の各号に定めるとおりとし、毎年5月末日迄に九州地区大学体育協議会本部に納入するものとする。ただし、第3号に定める参加種目別分担金は、本部が指定する日までに納入するものとする。

- (1) 基本分担金 1大学 20,000円
(2) 規模別分担金

イ 規模別分担金

学生予算別定員数区分	規模別分担金
500人 未満	16,000円
500人 ～ 999人	32,000円
1,000人 ～ 1,999人	64,000円
2,000人 ～ 2,999人	96,000円
3,000人 ～ 3,999人	128,000円
4,000人 ～ 4,999人	160,000円
5,000人 ～ 6,999人	224,000円
7,000人 ～ 9,999人	320,000円
10,000人 以上	350,000円

ロ 学生予算定員別分担金 学生予算定員に35円を乗じて得た金額とする。

- (3) 参加種目別分担金 1種目（男女別）5,000円
(当番大学)

第2条 規約第4条第1号及び第2号に規定する体育大会及び体育系学生リーダーズ・トレーニングの当番大学は、原則として以下の号番号順に定めるものとする。ただし、この場合、体育大会の当番と体育系リーダーズ・トレーニングの当番の間には、一定の期間的余裕を設けるものとする。

- (1) 九州工業大学、北九州市立大学、九州共立大学、九州国際大学、九州女子大学、西南女学院大学、西日本工業大学、折尾愛真短期大学、九州女子短期大学、西南女学院大学短期大学部、東筑紫短期大学、九州栄養福祉大学
- (2) 佐賀大学、九州情報大学、久留米工業大学、久留米大学、福岡医療福祉大学、筑紫女学園大学、福岡経済大学、福岡国際大学、西九州大学、九州大谷短期大学、福岡こども短期大学、筑紫女学園大学短期大学部、福岡女子短期大学、佐賀女子短期大学、西九州大学短期大学部
- (3) 九州大学、西南学院大学、第一薬科大学、東和大学、中村学園大学、福岡女学院大学、福岡大学、香蘭女子短期大学、精華女子短期大学、中村学園大学短期大学部、福岡女学院大学短期大学部
- (4) 大分大学、宮崎大学、宮崎公立大学、日本文理大学、別府大学、九州保健福祉大学、南九州大学、宮崎国際大学、別府大学短期大学部、別府溝部学園短期大学
- (5) 長崎大学、長崎県立大学、活水女子大学、長崎外国語大学、長崎国際大学、長崎純心大学、長崎総合科学大学、長崎外国語短期大学、長崎女子短期大学
- (6) 熊本大学、熊本県立大学、九州看護福祉大学、九州ルーテル学院大学、熊本学園大学、熊本保健科学大学、崇城大学、東海大学九州キャンパス、中九州短期大学
- (7) 福岡教育大学、福岡県立大学、福岡女子大学、九州産業大学、近畿大学産業理工学部、福岡工業大学、近畿大学九州短期大学、東海大学福岡短期大学、福

岡工業大学短期大学部

- (8) 鹿児島大学、鹿児島体育大学、鹿児島県立短期大学、鹿児島国際大学、志学館大学、第一工業大学、鹿児島国際大学短期大学部、鹿児島女子短期大学、第一幼児教育短期大学

(体育大会実施種目の基準)

第3条 体育大会実施種目の基準は、次のとおりとする。

- (1) 実施種目は25種目を超えないものとし、原則として種目の変更は行わないものとする。ただし、学生の提案に基づき総務委員会が承認した種目については、25種目の範囲内において種目の入れ替えを認めることができるものとする。
- (2) 実施種目のうち、参加大学が、男子10校、女子5校に満たない種目については、その年度に限り実施しないこととする。ただし、総務委員会が定める種目については、この限りではない。
- (3) 当番大学の事情により実施できない種目は、その年度に限り実施しないことができる。

(当番大学の経費負担)

第4条 体育大会及び体育系学生リーダーズ・トレーニングの経費については、当番大学の校費等による負担は行わないものとする。

(体育大会参加学生の資格基準)

第5条 体育大会参加学生の資格基準は、次の各号に掲げる条件をすべて満たす者とする。

- (1) 九州地区大学体育協議会に加盟している大学の正規の課程に在学する者
- (2) 休学期間を除く在学期間が、当該大学の最短修業年限を超えない者
- (3) 各競技団体アマチュア規程に違反していない者

附 則

1. 本施行細則は、昭和50年1月1日から施行する。
2. 本施行細則は、昭和50年5月6日から施行する。
3. 本施行細則は、昭和51年5月14日から施行する。
4. 本施行細則は、昭和56年5月28日から施行する。
5. 本施行細則は、昭和57年1月1日から施行する。
6. 本施行細則は、昭和58年5月27日から施行する。
7. 本施行細則は、昭和59年6月8日から施行する。
8. 本施行細則は、昭和60年5月21日から施行する。
9. 本施行細則は、昭和62年5月18日から施行する。
10. 本施行細則は、昭和63年5月20日から施行する。
11. 本施行細則は、平成2年5月17日から施行する。
12. 本施行細則は、平成3年5月21日から施行する。
13. 本施行細則は、平成4年5月22日から施行する。
14. 本施行細則は、平成5年5月28日から施行する。
15. 本施行細則は、平成6年5月9日から施行する。
16. 本施行細則は、平成7年5月9日から施行する。
17. 本施行細則は、平成8年5月22日から施行する。ただし、第1条については平成8年4月1日から適用する。
18. 本施行細則は、平成9年5月7日から施行する。
19. 本施行細則は、平成10年4月1日から施行する。
20. 本施行細則は、平成11年5月25日から施行する。
21. 本施行細則は、平成12年5月26日から施行する。
22. 本施行細則は、平成13年5月22日から施行する。
23. 本施行細則は、平成14年5月17日から施行する。
24. 本施行細則は、平成15年5月16日から施行する。
25. 本施行細則は、平成16年5月19日から施行する。
26. 本施行細則は、平成17年5月25日から施行する。
27. 本施行細則は、平成18年5月23日から施行する。
28. 本施行細則は、平成19年5月22日から施行する。

- 29. 本施行細則は、平成20年4月1日から施行する。
- 30. 本施行細則は、平成21年4月1日から施行する。
- 31. 本施行細則は、平成21年5月13日から施行する。
- 32. 本施行細則は、平成22年5月19日から施行する。

九州地区大学体育大会規則

(趣旨)

第1条 本規則は、九州地区大学体育協議会（以下「協議会」という。）規約（以下「規約」という。）第4条第1号に定める九州地区大学体育大会（以下「大会」という。）の運営について定める。

(実施要項)

第2条 大会の予算、決算、開催期日、種目担当校、競技種目及び競技内容等を定める実施要項の原案作成は、第4条第2号に規定する事務局大学を経て九州地区大学体育協議会総務委員会が行い、評議員会の承認を得るものとする。

(役員)

第3条 大会には、次の役員を置く。

- (1) 大会名誉会長 1名 九州地区大学体育協議会会長
- (2) 大会会長 1名 事務局大学の学長
- (3) 大会副会長 その他の当番大学の学長
- (4) 大会参与 当番大学の体育協議会参与
- (5) 大会実行委員長 事務局大学学生部長又は副学長
- (6) 大会事務局長 事務局大学学生部次長又は主務課長

2 役員の任期は、その年の1月1日から1年とする。

(機関)

第4条 大会運営のため当番大学に次の機関を置く。

- (1) 大会実行委員会
- (2) 大会事務局
- (3) 種目別実行委員会
- (4) その他大会運営に必要と認められる機関

(大会実行委員会)

第5条 大会実行委員会は、次の事項を掌る。

- (1) 大会についての企画及び予算
- (2) その他重要な事項

(大会事務局)

第6条 大会事務局は、次の事項を総括する。

- (1) 大会の実施企画及び運営
- (2) 予算及び決算
- (3) 協議会本部・当番大学及び参加大学との連絡・調整
- (4) その他必要な事項

(種目別実行委員会)

第7条 種目別実行委員会は、次の事項を掌る。

- (1) 当該種目の企画及び運営
- (2) 当該種目の予算及び決算
- (3) その他必要な事項

(報告等)

第8条 大会事務局は、大会終了後、次の書類を作成し、協議会本部及び次期事務局大学に送付し、総務委員会の承認を得なければならない。

(1) 決算書

(2) プログラム及び記録報告書

(3) その他次期大会運営に参考となると思われる事項等

2 決算書については、監査委員の監査を受けなければならない。

(経費)

第9条 大会の経費は、次のとおりとする。

(1) 協議会から交付される体育大会経費（加盟大学分担金）

(2) その他の補助金

(3) その他

(その他)

第10条 本規則は、総務委員会の提案に基づき評議員会の議を経なければ改正することができない。

附 則

1. 本規則は、昭和50年1月1日から施行する。
2. 本規則は、昭和50年5月6日から施行する。
3. 本規則は、昭和57年1月1日から施行する。
4. 本規則は、平成10年4月1日から施行する。
5. 本規則は、平成18年5月23日から施行する。

九州地区大学体育系学生リーダーズ・トレーニング規則

(目的)

第1条 九州地区大学体育協議会（以下「協議会」という。）規約（以下「規約」という。）第4条第2号に定める九州地区大学体育系学生リーダーズ・トレーニング（以下「リーダーズ・トレーニング」という。）は、体育系サークル幹部にリーダーとしての知識を習得させ、併せて幹部としての責任及び役割を身に付けさせることによってその資質の向上を図り、もって九州地区における大学体育の活性化及びスポーツの振興を図るとともに、大学間相互の連帯意識及び積極的な相互協力の精神を育成することを目的として実施する。

(当番大学)

第2条 リーダーズ・トレーニングは、規約施行細則第2条に定める当番大学が企画・立案し、協議会総務委員会の承認を得て実施する。

(役員)

第3条 リーダーズ・トレーニングには、次の役員を置く。

- | | |
|---------------|------------------------------------|
| (1) 顧問 | 当番大学の学長 |
| (2) 参与 | 当番大学の副学長、学生部長、事務局長及び学生部次長（相当職を含む。） |
| (3) 事務局長 | 第4条第2号に規定する事務局大学の学生部次長（相当職を含む。） |
| (4) 実行委員会委員長 | 事務局大学の主務課長 |
| (5) 実行委員会副委員長 | 事務局大学の学生代表 |

(機関)

第4条 リーダーズ・トレーニングの企画、実施のため、当番大学に次の機関を置く。

- (1) 実行委員会
- (2) 事務局大学
- (3) その他リーダーズ・トレーニングの実施に必要と認められる機関

(実行委員会)

第5条 実行委員会は、当番大学の各大学等から推薦された学生、教員及び事務職員各1人以上をもって構成し、次の事項を掌る。

- (1) リーダーズ・トレーニングの企画・立案及び実施・運営
- (2) その他リーダーズ・トレーニングの実施等に必要な事項

(事務局大学の任務)

第6条 事務局大学は当番大学の協議によって決定するものとし、次の事項を総括する。

- (1) リーダーズ・トレーニングの企画及び実施・運営
- (2) リーダーズ・トレーニングの予算及び決算
- (3) 実行委員会の開催
- (4) 九州地区大学体育協議会本部（以下「本部校」という。）及び当番大学並びにリーダーズ・トレーニング参加大学等との連絡・調整
- (5) その他リーダーズ・トレーニングの企画・立案及び実施・運営に必要な事項（運営経費）

第7条 リーダーズ・トレーニングは、次の経費によって運営するものとする。

- (1) 協議会から交付されるリーダーズ・トレーニング経費
- (2) 参加者から徴収する個人負担金
- (3) その他補助金等

(実施要項基準)

第8条 リーダーズ・トレーニングの実施要項は、協議会総務委員会が別に定める「リーダーズ・トレーニング実施要項基準」に基づいて策定するものとする。

(報告)

第9条 当番大学は、リーダーズ・トレーニング終了後、次の書類を作成して本部校に報告しなければならない。

- (1) 決算書
- (2) 実施記録報告書
- (3) その他次期リーダーズ・トレーニング実施の参考に供する資料等

(その他)

第10条 本規則は、総務委員会の提案に基づき評議員会の議を経なければ改正することができない。

附 則

1. 本規則は、平成10年4月1日から施行する。
2. 本規則は、平成16年5月19日から施行する。
3. 本規則は、平成18年5月23日から施行する。

九州地区大学体育協議会準備金規約

(趣旨)

第1条 九州地区大学体育協議会の単年度会計の明確化を図るためその資産を分割することとし、分割された資産の一方を原資として、同協議会の実施事業に係る不測の事態等に備えるための「準備金の制度」を設ける。

(名称)

第2条 前条に掲げる「準備金の制度」は、九州地区大学体育協議会準備金（以下「準備金」という。）と称する。

(原資への充当金等)

第3条 九州地区大学体育協議会（以下「協議会」という。）の資産のうち「準備金以外の資産」に余剰が生じた場合には、総務委員会の承認を得て、その一部を準備金に充当することができるものとする。

2 準備金の銀行等預金に生じる「利息」は、年度毎に準備金に繰り入れるものとする。

(不測の事態等)

第4条 第1条の「不測の事態等」とは、次の事項をいう。

- (1) 協議会の事業実施中に生じた事故等に係る救援活動を必要とする事態
- (2) 協議会の事業実施中に生じた事故等に起因する訴訟事案等への対応
- (3) 協議会の事業実施に係る臨時の経費を必要とする事態
- (4) その他総務委員会が費用の支出または資産の処分等の必要性を認める事態

(経費の支出)

第5条 前条各号に係る事態への準備金からの経費の支出は、原則として、総務委員長が評議員会の承認を得て執行する。

ただし、これらの事項のうち緊急性があり速やかに対応する必要があると認められる事項については、総務委員長が、総務委員会委員の意見を聴取した上で準備金から支出すべき事態であるか否かの判断を行い、必要な措置を講じることができるものとする。この場合、総務委員長は、その対応内容等を、できる限り早い機会に評議員会に対して報告しなければならない。

(規約の改正)

第6条 この規約の改正は、評議員会の承認を得なければならない。

(その他)

第7条 その他準備金の取扱い等に関し必要な事項については、総務委員会の定めるところによる。

附 則

1. 本規約は、平成11年5月25日から施行する。

九州地区大学体育協議会学生代表者会議規則

(趣旨)

第1条 この規則は、九州地区大学体育協議会（以下「体育協議会」という。）に設置する学生代表者会議の具体的な任務等に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 学生代表者会議は、体育協議会加盟校の学生相互の連絡を密にし、学生の団結と学生の意見集約を図ることにより、九州地区大学体育大会（以下「体育大会」という。）並びに九州地区大学体育系学生リーダーズ・トレーニング（以下「リーダーズ・トレーニング」という。）の円滑な運営及び学生の主体的な参加に資することを目的とする。

(任務)

第3条 学生代表者会議は、次に掲げる事項を任務とする。

- (1) 体育大会に係る広報
- (2) 体育大会に係る学生の企画立案及び運営参画に関する事
- (3) リーダーズ・トレーニングに係る学生の企画立案及び運営参画に関する事
- (4) 体育大会及びリーダーズ・トレーニングに係る当番校事務局との連絡調整
- (5) グループ会議の開催
- (6) その他学生代表者会議の目的を達成するために必要なこと

(本部校)

第4条 学生代表者会議の本部校を九州大学とする。

(委員)

第5条 学生代表者会議は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 本部校委員 本部校から2名とし、1名は体育協議会の学生評議員（以下「学生評議員」という。）とする。
 - (2) 代表委員 体育協議会施行細則第2条に規定する当番大学の学生評議員から各1名とする。
- 2 委員の選出は、当番大学のグループ会議の互選により選出する。
- 3 委員の任期は1年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 前項の委員は、再任されることができる。
- 5 議長は、本部校委員のうち、学生評議員の委員をもって議長とする。

(学生代表者会議)

第6条 学生代表者会議は、年4回開催し、議長が召集する。

(グループ会議)

第7条 学生代表者会議に、次に掲げる事項を行わせるため、各グループにグループ会議を置く。

- (1) 体育大会に係るグループ地区内の広報
- (2) 体育大会に係る学生の企画立案及び運営参画に関するグループ内の検討
- (3) リーダーズ・トレーニングに係る学生の企画立案及び運営参画に関するグループ内の検討
- (4) 代表委員の選出
- (5) その他学生代表者会議の目的を達成するために必要なことのグループ内の検討

2 グループ会議は、各グループの加盟校の学生評議員をもって構成する。

3 グループ会議は、各グループの代表委員が必要に応じて開催する。

(旅費)

第8条 学生代表者会議の開催に係る旅費は、体育協議会から支給する。

(その他)

第9条 本規則は、総務委員会の提案に基づき評議員会の議を経なければ改正することができない。

附 則

1. 本規則は、平成16年5月19日から施行する。
2. 本規則は、平成18年5月23日から施行する。

平成23年5月20日
総務委員会承認

体育系学生リーダーズ・トレーニング実施要項基準

1. 名 称 体育系学生リーダーズ・トレーニング
2. 目 的 体育系サークル幹部を対象に、リーダーとしての知識を習得し、幹部としての責任、役割を身につけるとともに、九州地区大学体育の活性化等並びに大学間相互の連帯意識の育成及びサークル幹部の資質の向上を図ることを目的とする。
3. 期 日 毎年10月～11月（2泊3日以内）
4. 場 所 公共施設等の利用（経費節減のため）
5. 参 加 者 (1) 加盟大学の体育系サークルを統括する学生
(2) 体育サークルの指導・助言を担当する教職員
(3) 九州地区大学体育協議会総務委員会の体育教員
6. 研修内容 リーダーシップ論、サークルの運営法、トレーニング法及び課外活動中の安全対策並びに体育大会の活性化など
7. 参 加 費 15,000円以内（個人負担額節減のため）
8. 当番大学 当番大学は、開催期日、場所、研修内容等の企画について、本部校と協議・調整のうえ、5月の評議員会に実施要項（案）を提案する。

九州地区大学体育大会実施種目

九州地区大学体育協議会規約施行細則第3条第1項に規定する現行の25実施種目は次のとおりである。

- | | | |
|-------------|------------|----------|
| 1. 陸上競技 | 11. 弓道 | 21. 柔道 |
| 2. 水泳競技 | 12. 自動車 | 22. 剣道 |
| 3. 硬式野球 | 13. ハンドボール | 23. ラグビー |
| 4. 準硬式野球 | 14. バドミントン | 24. サッカー |
| 5. テニス | 15. ボクシング | 25. 馬術 |
| 6. ソフトテニス | 16. アーチェリー | |
| 7. バレーボール | 17. グライダー | |
| 8. 卓球 | 18. 体操 | |
| 9. バスケットボール | 19. ボート | |
| 10. 空手道 | 20. ソフトボール | |

平成17年3月18日総務委員会承認 平成18年度体育大会から適用